広島市子どもの生活と意識に関する
アンケート調査結果

平成 21 年（2009 年）１０月

広島市こども未来局

目次

Ⅰ　調査の概要 ･････････････　１

Ⅱ　回答者の属性 ･････････････　２

Ⅲ　調査結果
１　家庭・学校・地域での生活 ･････････････　３
（１）ふだんの生活や家庭での過ごし方 ［　３］
（２）学校生活や友だちとの関係 ［　７］
（３）地域とのかかわりなど ［　９］

２　子どもの相談窓口 ･････････････１４
（１）相談窓口の利用 ［１４］
（２）相談窓口に望むこと ［１７］

３　子どもの遊び場〔小学生〕 ･････････････１８
（１）ふだんの遊び場 ［１８］
（２）遊び時間 ［１９］
（３）児童館の利用 ［２０］

４　子どもの意識 ･････････････２１
（１）ふだんの生活で感じていることなど ［２１］
（２）自分のことについて ［２３］
（３）悩みや不安について ［２４］
（４）周りの人との関係 ［２６］
（５）将来の夢 ［２７］

Ⅳ　まとめ ･････････････２８

Ⅰ　調査の概要

１　目的

広島市における子どもの生活実態や意識に関してアンケート調査を実施し、「広島市新児童育成計画」改訂に当たっての基礎資料とするとともに、具体的な施策に反映させていくことを目的とする。

２　実施方法

次のとおり、広島市立の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において、調査対象者の抽出及びアンケート調査票の配布を行った。

回収については、調査対象者が個別にアンケート調査票を返信用封筒に入れ、広島市へ郵送することにより行った。

区　分	調査対象者
小学校	8区から1校ずつ4、5、6学年のそれぞれ1クラスの児童、適応指導教室の児童
中学校	8区から1校ずつ1、2、3学年のそれぞれ1クラスの生徒、適応指導教室の生徒
高等学校	8校から1、2、3学年のそれぞれ1クラスの生徒
特別支援学校	高等部の生徒

３　調査期間

平成21年7月15日（水）～7月29日（水）

４　回収結果

区　分	配布数	回収数	回収率
小学校	798	511	64．0%
中学校	858	398	46．4%
高等学校	1，057	397	37．6%
合計	2，713	1，306	48．1%

５　調査結果の表示方法

(1) 集計結果の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合がある。

(2) 複数回答が可能な設問は、全ての比率の合計が100%にならない場合がある。

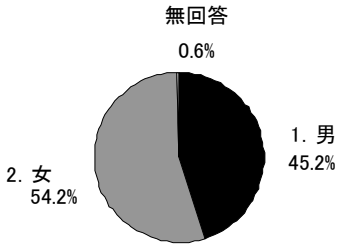
Ⅱ　回答者の属性

小学生調査

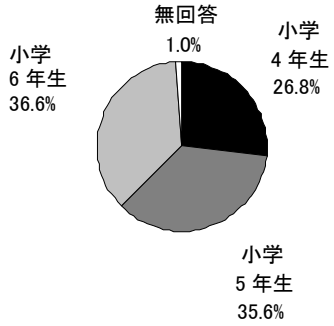
区分	件数	割合%
1. 男	231	45.2
2. 女	277	54.2
無回答	3	0.6
合計	511	100

区分	件数	割合%
小学 4 年生	137	26.8
小学 5 年生	182	35.6
小学 6 年生	187	36.6
無回答	5	1
合計	511	100

小学生調査 性別　N=511



小学生調査 学年別　N=511

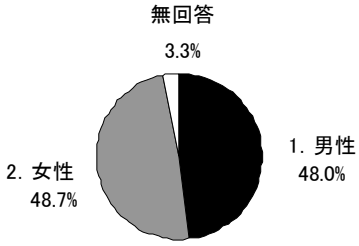


中学生調査

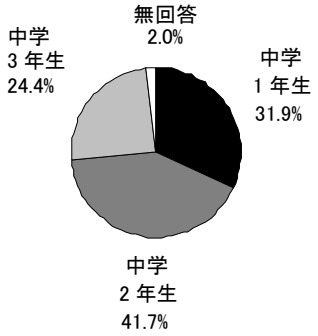
区分	件数	割合%
1. 男性	191	48
2. 女性	194	48.7
無回答	13	3.3
合計	398	100

区分	件数	割合%
中学 1 年生	127	31.9
中学 2 年生	166	41.7
中学 3 年生	97	24.4
無回答	8	2
合計	398	100

中学生調査 性別　N=398



中学生調査 学年別　N=398

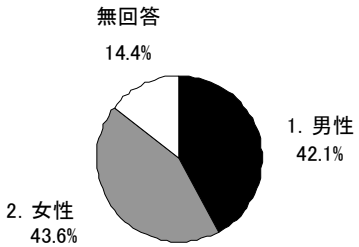


高校生調査

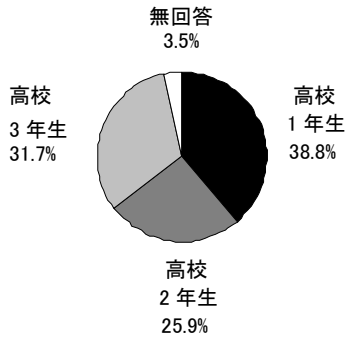
区分	件数	割合%
1. 男性	167	42.1
2. 女性	173	43.6
無回答	57	14.4
合計	397	100

区分	件数	割合%
高校 1 年生	154	38.8
高校 2 年生	103	25.9
高校 3 年生	126	31.7
無回答	14	3.5
合計	397	100

高校生調査 性別　N=397



高校生調査 学年別　N=397



Ⅲ　調査結果

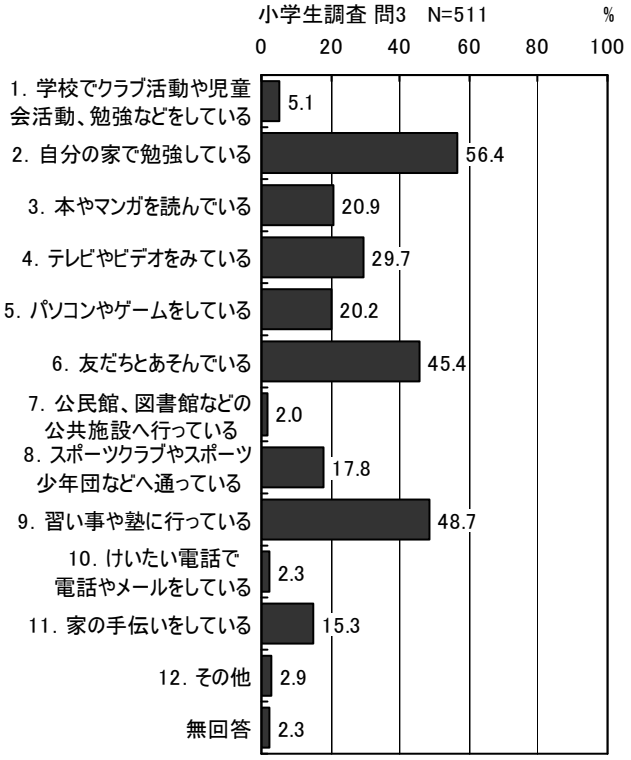
１　家庭・学校・地域での生活

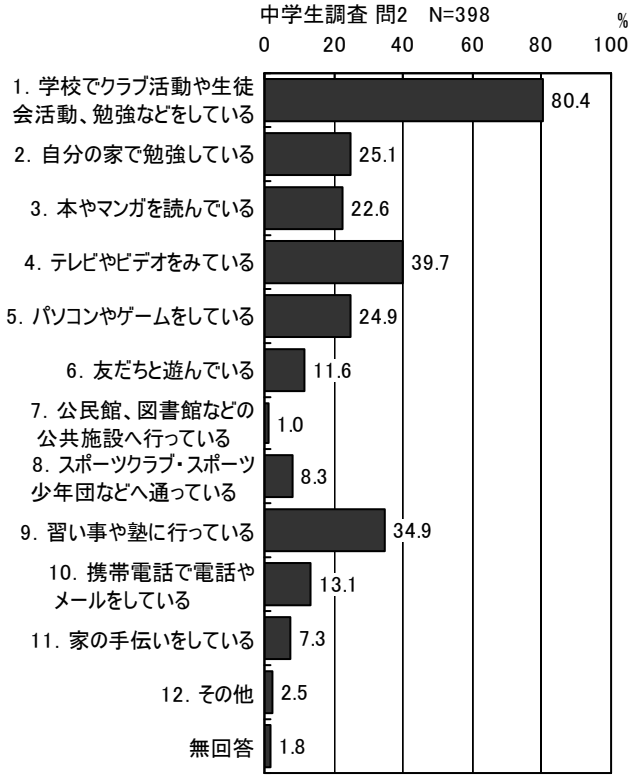
（１） ふだんの生活や家庭での過ごし方

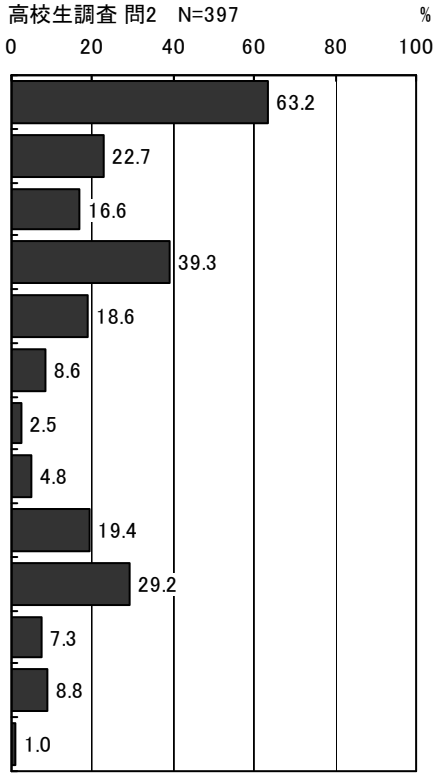
問　平日の放課後（夕食までの時間）は何をして過ごしているか。（複数回答）

小学生は「自分の家で勉強している」が56.4%と最も高く、続いて「習い事や塾に行っている」「友だちとあそんでいる」が高くなっている。

中学生、高校生は、「学校でクラブ活動や生徒会活動、勉強などをしている」が、中学生 80.4%、高校生 63.2%と最も高く、続いて「テレビやビデオを見ている」となっている。また、小学生では低かった「携帯電話で電話やメールをしている」が高くなっているが、小学生では高かった「友だちと遊んでいる」が低くなっている。





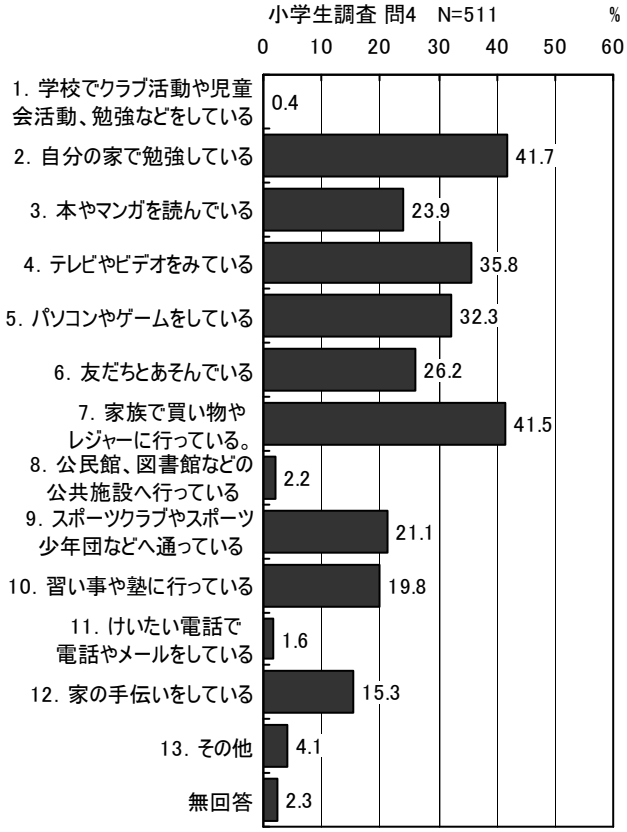


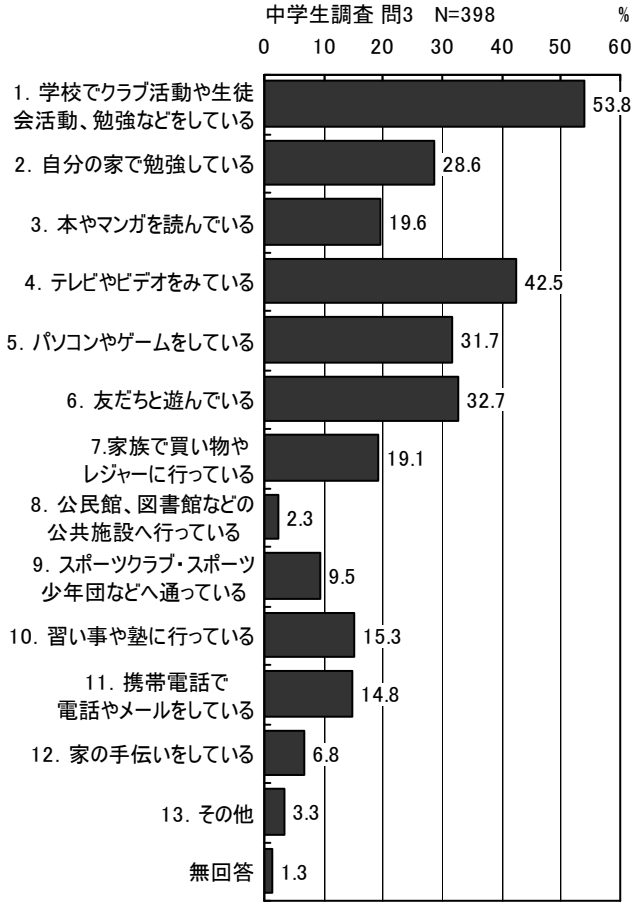
問　休日は何をして過ごしているか。（複数回答）

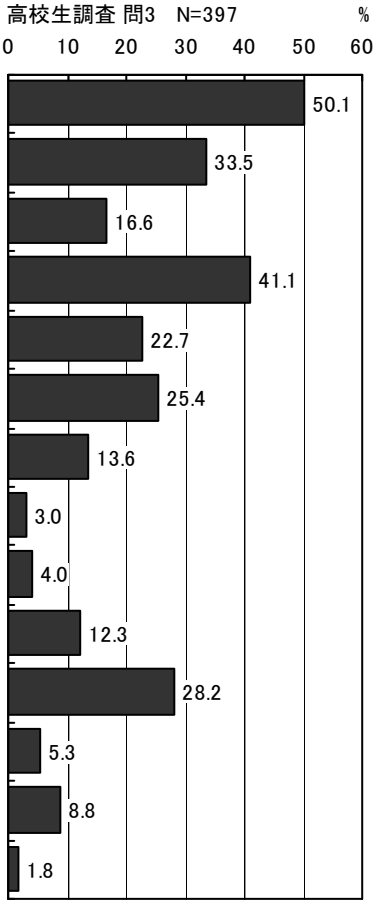
小学生は「自分の家で勉強している」「家族で買い物やレジャーに行っている」が4割を超えて高く、続いて「テレビやビデオをみている」「パソコンやゲームをしている」が高くなっている。

中学生、高校生は「学校でクラブ活動や生徒会活動、勉強などをしている」が5割を超えて最も高く、続いて「テレビやビデオを見ている」が高くなっている。

「携帯電話で電話やメールをしている」は平日と同程度であるが、「友だちと遊んでいる」が平日に比べて 15 ポイント以上増加している。



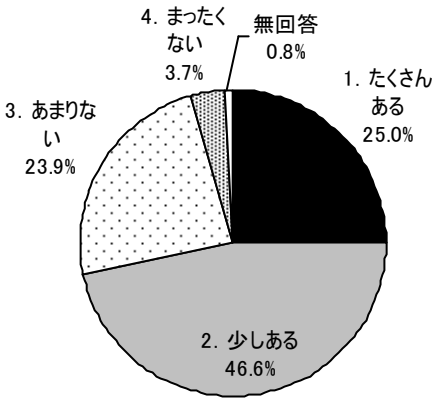




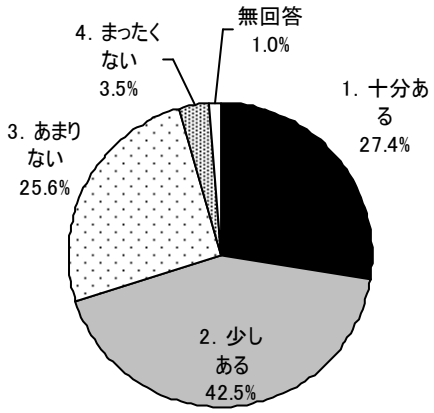
問　毎日の生活には、時間のゆとりがあるか。

毎日の生活に時間のゆとりがあるかについては、「十分ある（たくさんある）」と「少しある」の合計の割合が、小学生は 71.6%、中学生は 69.9%となっているが、高校生は 59.7%にとどまっている。

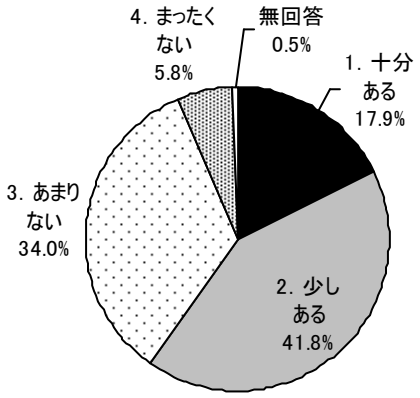
小学生調査 問5　N=511



中学生調査 問4　N=398



高校生調査 問4　N=397

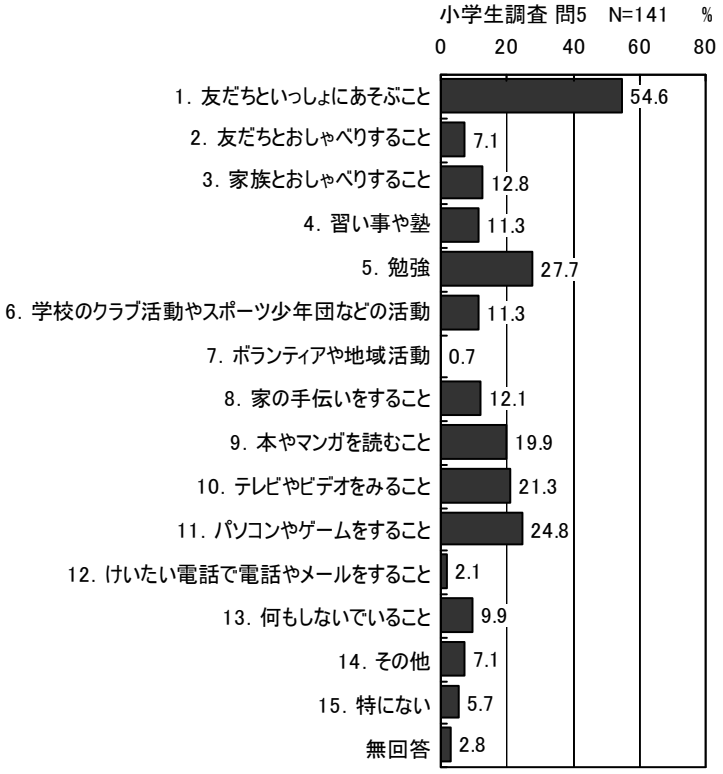


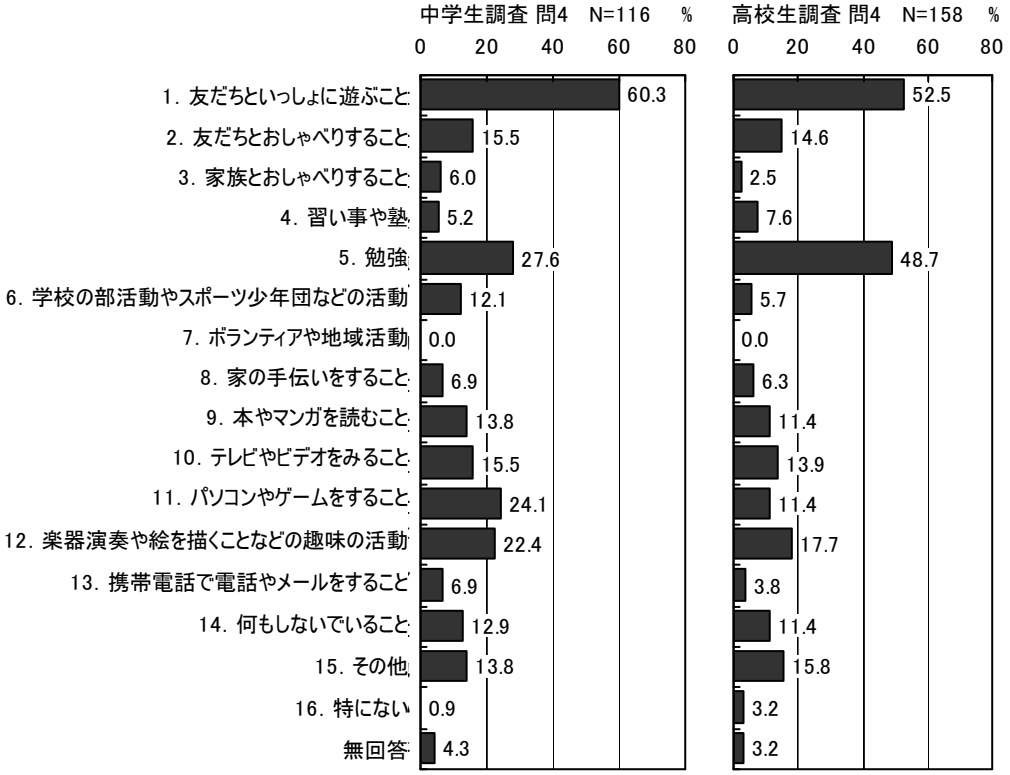
問　時間に余裕があったら、何にもっと時間をかけたいか。（複数回答）
（前の問で「あまりない」「まったくない」と回答した人のみ）

時間に余裕があったらもっと時間をかけたいことについては、小学生、中学生、高校生とも、「友だちといっしょにあそぶこと」が5割を超えて最も高く、次に、「勉強」が高くなっており、特に高校生は約 49%とかなり高くなっている。

続いて、小学生、中学生は、「パソコンやゲームをすること」が高く、高校生は、「楽器演奏や絵を描くことなどの趣味の活動」が高くなっている。

「ボランティアや地域活動」については、中学生、高校生では回答がなく、小学生も非常に低くなっている。



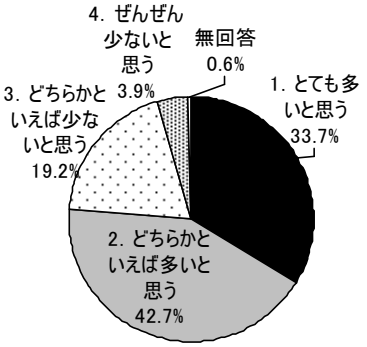


問　あなたが家族と話す時間は多いか少ないか。

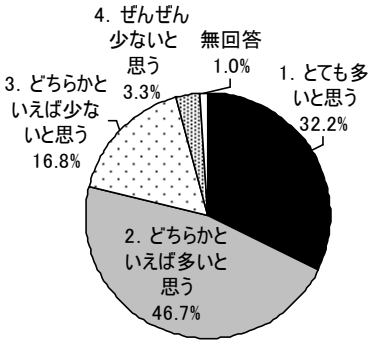
小学生、中学生、高校生とも、「とても多いと思う」と「どちらかといえば多いと思う」の合計の割合は、小学生は 76.4%、中学生は 78.3%で、高校生は 68.3%と小学生、中学生と比べ約 10 ポイント減少している。

小学生、中学生、高校生とも、「ぜんぜん少ないと思う」は 5%以下で低くなっている。

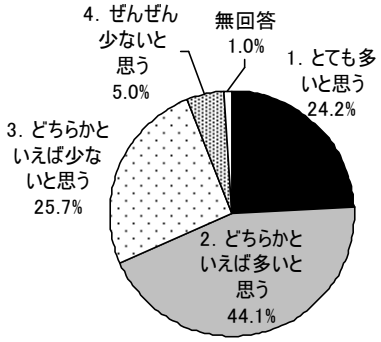
小学生調査 問6　N=511



中学生調査 問5　N=398



高校生調査 問5　N=397

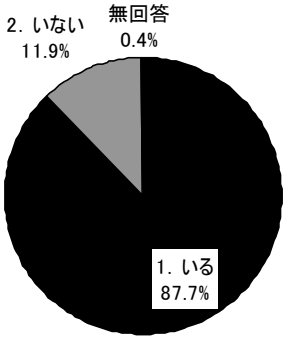


（２）学校生活や友だちとの関係

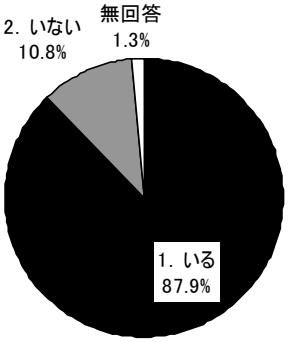
問　あなたには、何でも話せる友だちがいるか。

何でも話せる友だちが「いる」が、小学生 87.7%、中学生 87.9%となっているが、高校生は 81.4%と小学生・中学生と比べ若干減少している。

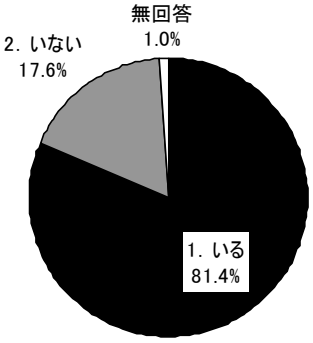
小学生調査 問7　N=511



中学生調査 問6　N=398



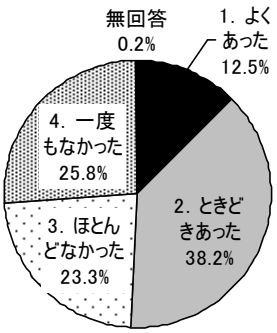
高校生調査 問6　N=397



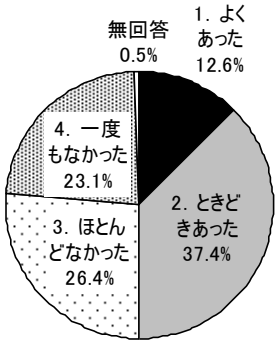
問　これまでに学校に行きたくないと思ったことがあるか。

「よくあった」と「ときどきあった」の合計の割合は、小学生 50.7%、中学生 50.0%となっているが、高校生は 54.7%と小学生・中学生と比べ若干増加している。

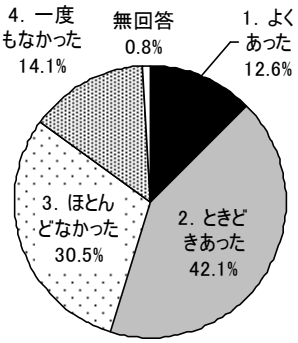
小学生調査 問8(1)　N=511



中学生調査 問7(1)　N=398



高校生調査 問7(1)　N=397



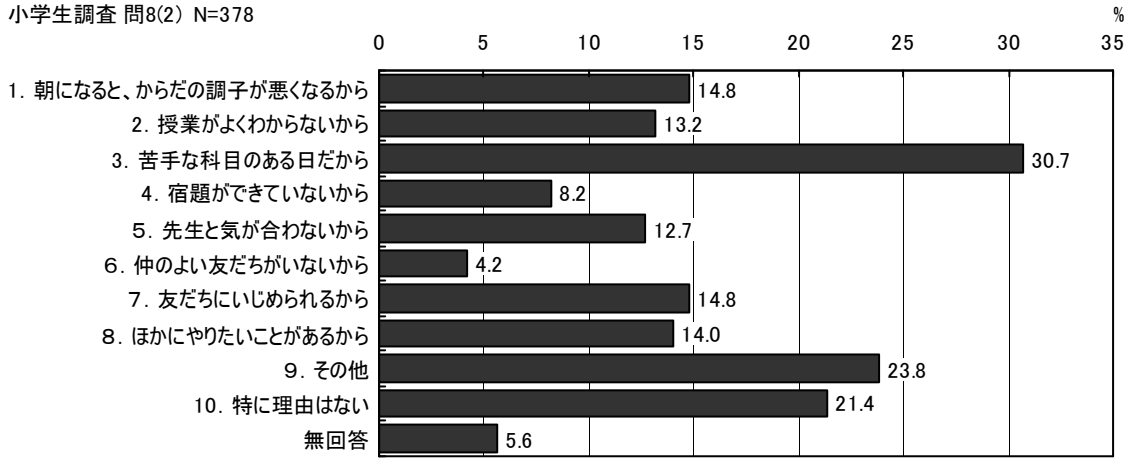
問　学校に行きたくないと思った理由は何か。（複数回答）
（前問で「一度もなかった」以外の回答をした人のみ）

学校に行きたくないと思った理由については、小学生は、「苦手な科目のある日だから」が 30.7%と最も高く、「その他」「特に理由はない」が約2割で続いている。次に、「朝になると、からだの調子が悪くなるから」「友だちにいじめられるから」「ほかにやりたいことがあるから」などが約 15%となっている。

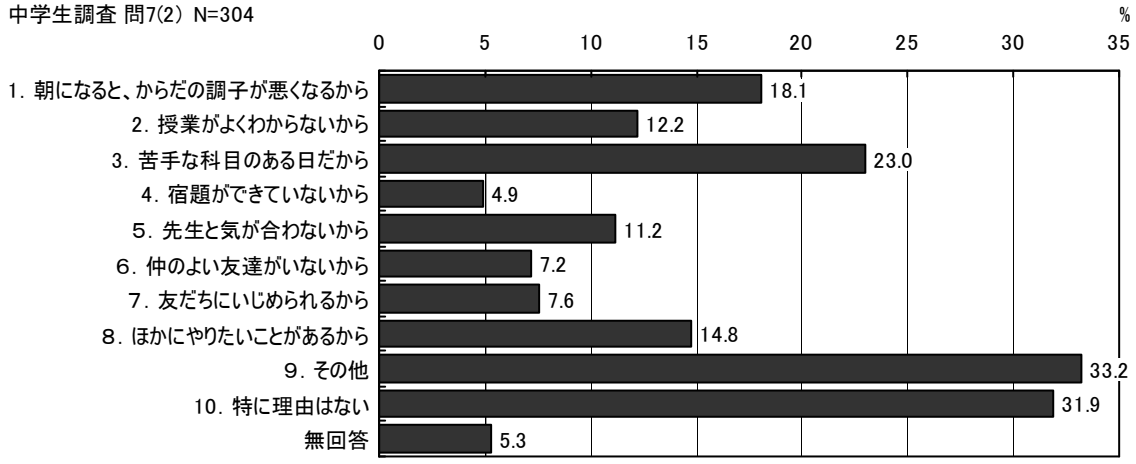
中学生、高校生は「特に理由はない」「その他」が高くなっている。

「その他」の主なものは、小学生、中学生、高校生とも、「面倒くさい」「眠い」「友人との人間関係がうまくいっていないから」などとなっている。

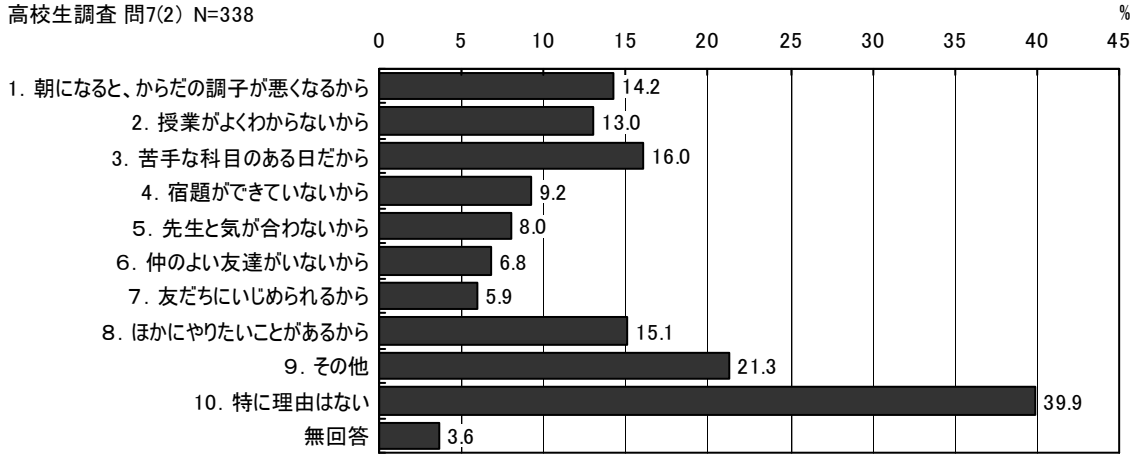
小学生調査 問8(2) N=378



中学生調査 問7(2) N=304



高校生調査 問7(2) N=338

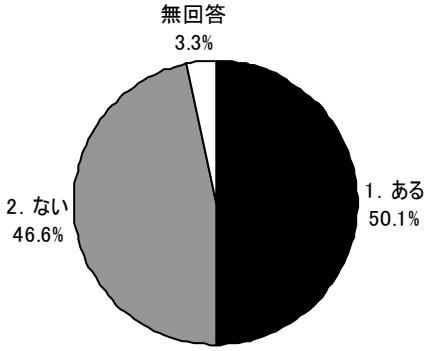


（３）地域とのかかわりなど

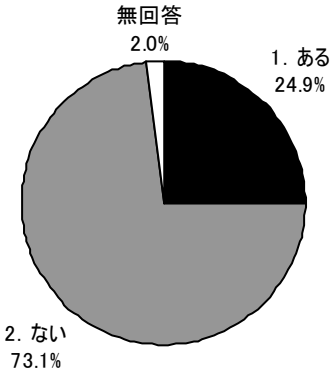
問　学校の部活動以外で、地域で参加している活動や団体（スポーツクラブ、ボーイ・ガールスカウト、子ども会など）はあるか。

小学生は地域で参加している活動が「ある」が50.1%となっているのに対し、中学生は 24.9%、高校生は 14.6%と年代が上がるにつれて減少している。

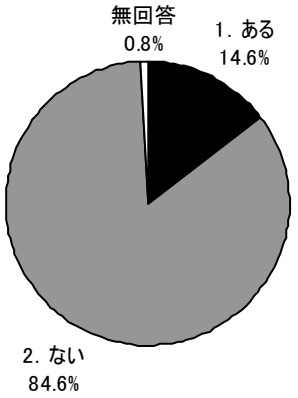
小学生調査 問9　N=511



中学生調査 問8　N=398



高校生調査 問8　N=397

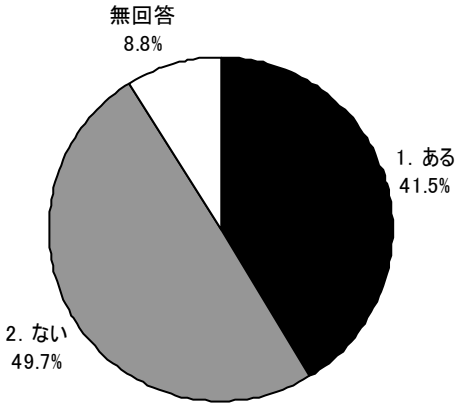


問　地域で参加している行事はあるか〔小学生〕

地域で参加している行事が「ない」が 49.7%で、「ある」を上回っている。

「ある」の主なものは、祭り、子ども会の行事、町内運動会、スポーツ関係行事などとなっている。

小学生調査 問10　N=511

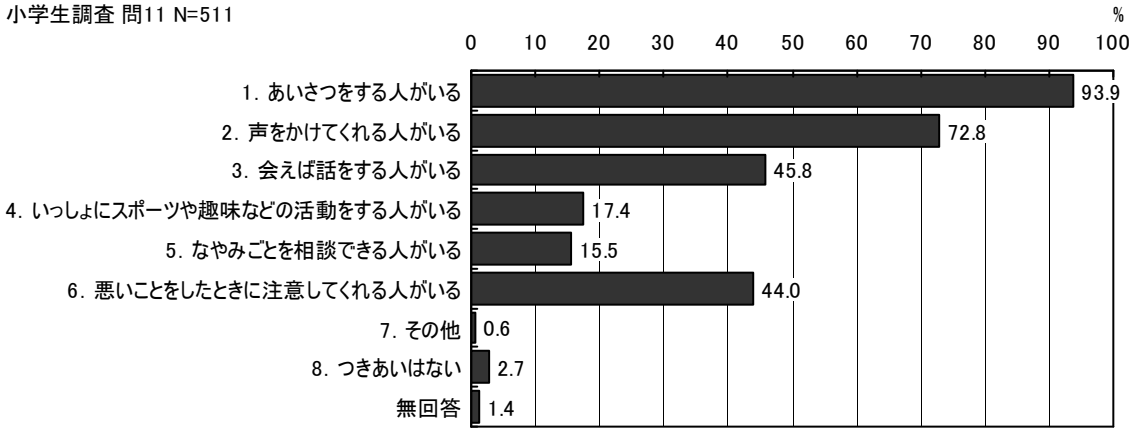


問　近所や地域の大人の中に次のようなことをする人はいるか。（複数回答）

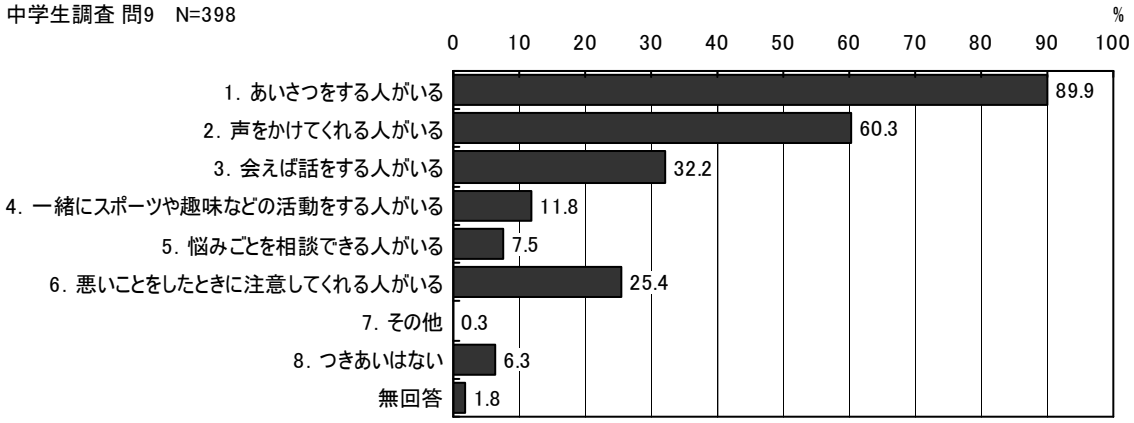
小学生、中学生、高校生とも、「あいさつする人がいる」が8割を超えて最も高く、続いて「声をかけてくれる人がいる」「会えば話をする人がいる」が高くなっているが、年代が上がるにつれて減少している。

「悪いことをしたときに注意してくれる人がいる」が小学生は 44.0%となっているが、中学生 25.4%、高校生 13.9%とかなり減少している。

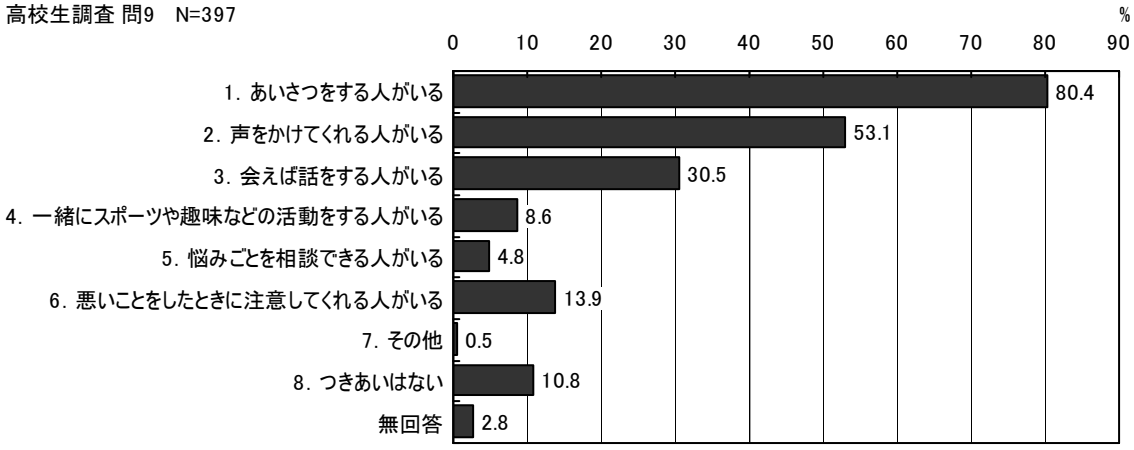
小学生調査 問11 N=511



中学生調査 問9　N=398



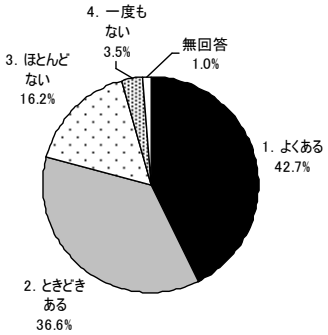
高校生調査 問9　N=397



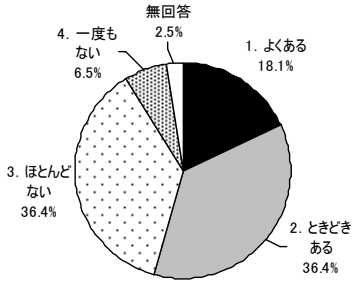
問　学年が違う子と遊んだりすることはあるか。

小学生は、「よくある」と「ときどきある」の合計の割合が 79.3%と高くなっているが、中学生は 54.5%、高校生は 42.5%と年代が上がるにつれて減少している。

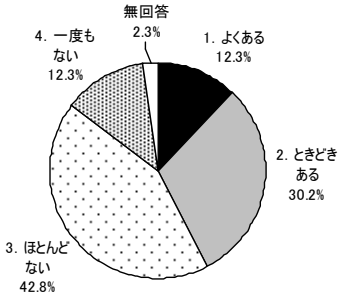
小学生調査 問12 N=511



中学生調査 問10 N=398



高校生調査 問10 N=397

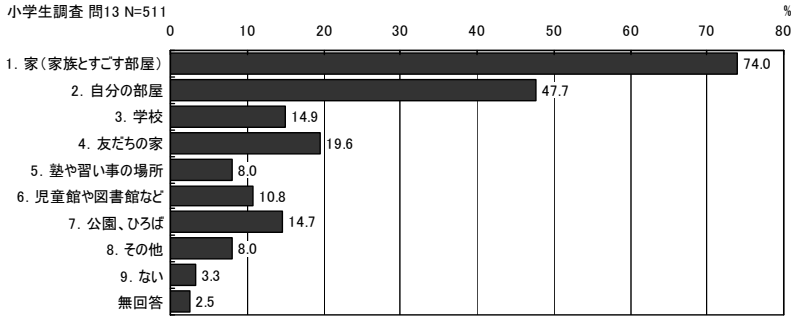


問　あなたがほっとできる場所はどこか。（複数回答）

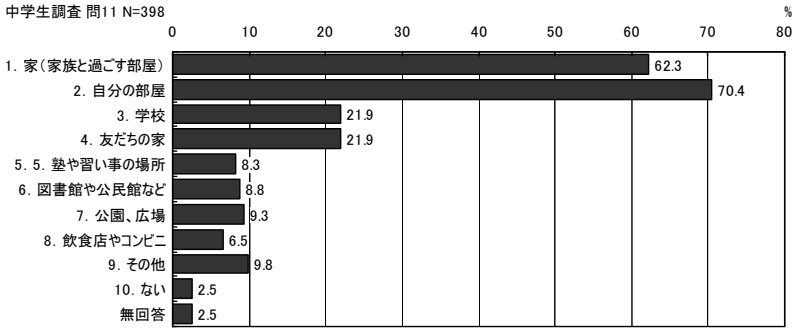
小学生は、「家（家族とすごす部屋）」が 74.0%と最も高く、続いて「自分の部屋」となっている。

中学生、高校生は、「自分の部屋」が7割を超えて最も高く、続いて「家（家族と過ごす部屋）」となっている。

小学生調査 問13 N=511

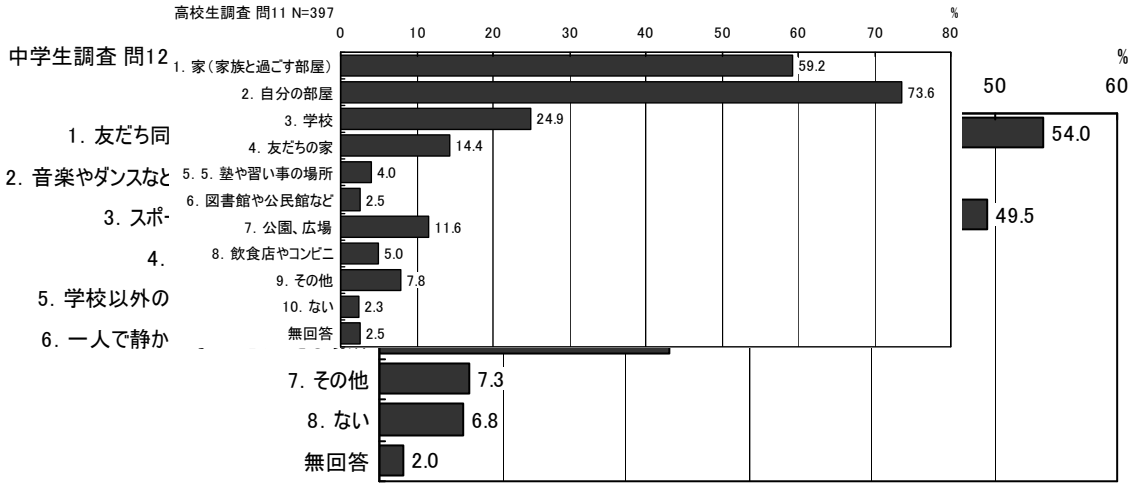


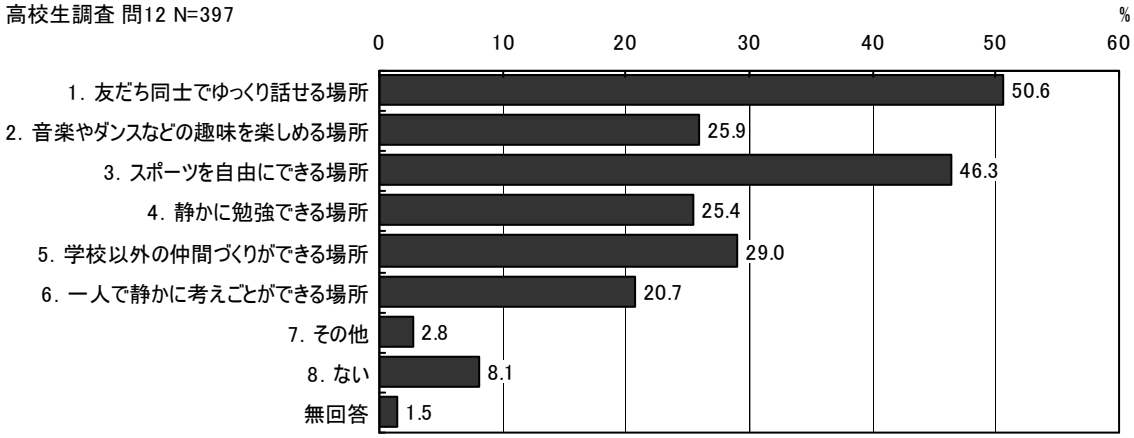
中学生調査 問11 N=398



問　地域でこんな場所があったらよいと思うものはあるか〔中学生・高校生〕（複数回答）

中学生、高校生ともに、「友だち同士でゆっくり話せる場所」「スポーツを自由にできる場所」が約5割で高く、続いて「学校以外の仲間づくりができる場所」「音楽やダンスなどの趣味を楽しめる場所」が高くなっている。

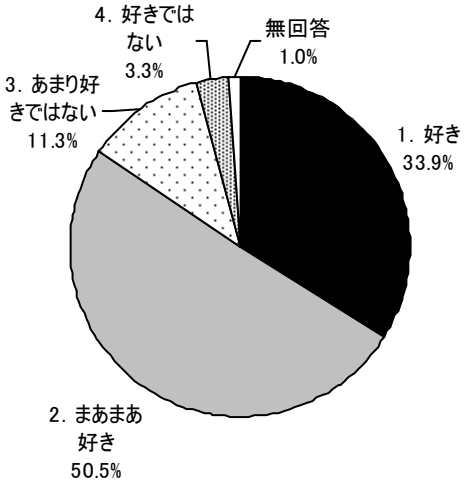




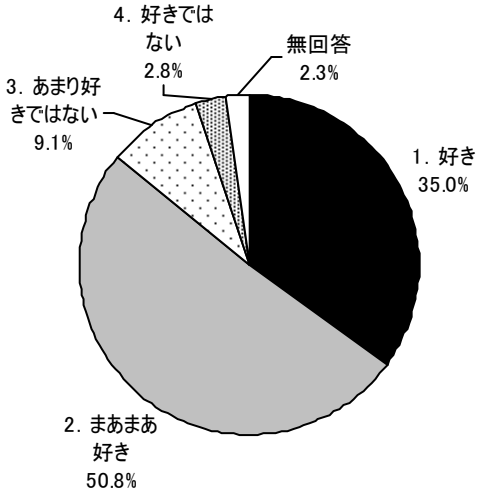
問　自分の住んでいる地域が好きか。〔中学生・高校生〕

自分が住んでいる地域が、「好き」と「まあまあ好き」の合計の割合は、中学生 84.4%、高校生 85.8%と高くなっている。

中学生調査 問19 N=398



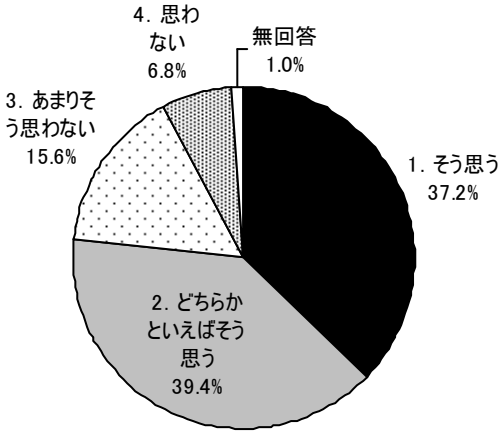
高校生調査 問19 N=397



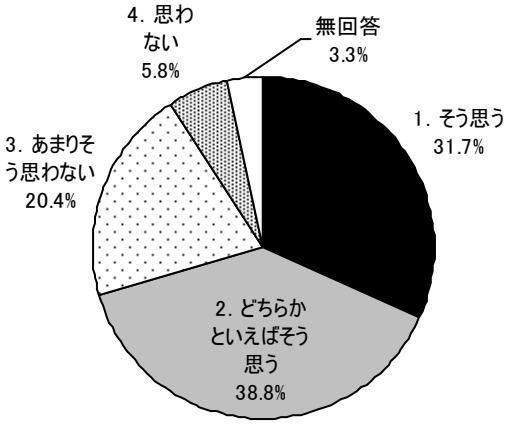
問　広島市にこれからも住み続けたいと思うか。〔中学生・高校生〕

広島市にこれからも住み続けたいと「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の割合は、中学生 76.6%、高校生 70.5%と高くなっている。

中学生調査 問20 N=398



高校生調査 問20 N=397



２　子どもの相談窓口

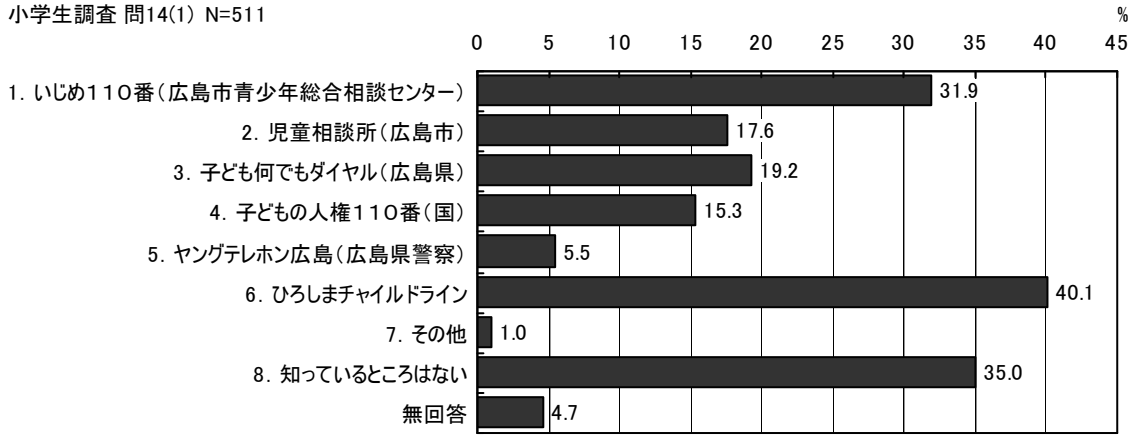
（１）相談窓口の利用

問　悩んだり、困ったりしたとき、電話などで話を聞いてくれる相談窓口について知っている所はどこか。（複数回答）

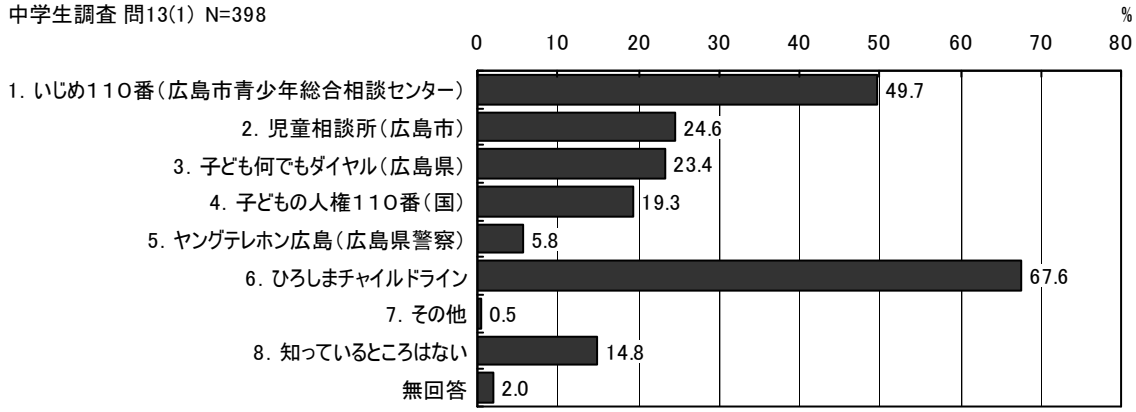
小学生、中学生、高校生ともに、「ひろしまチャイルドライン」が最も高く、次いで「いじめ110番（広島市青少年総合相談センター）となっている。

「知っているところはない」が、中学生、高校生は約15%となっているのに対し、小学生は35.0%と高くなっている。

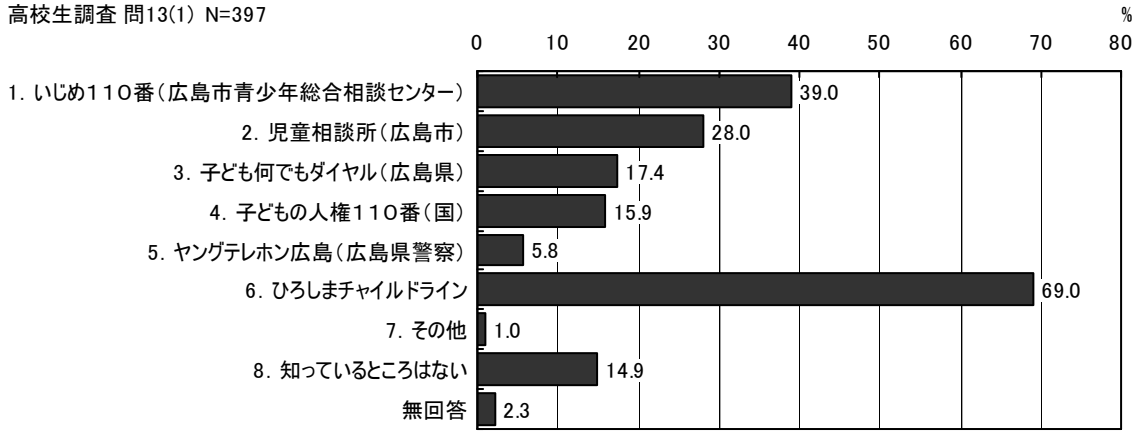
小学生調査 問14(1) N=511



中学生調査 問13(1) N=398



高校生調査 問13(1) N=397

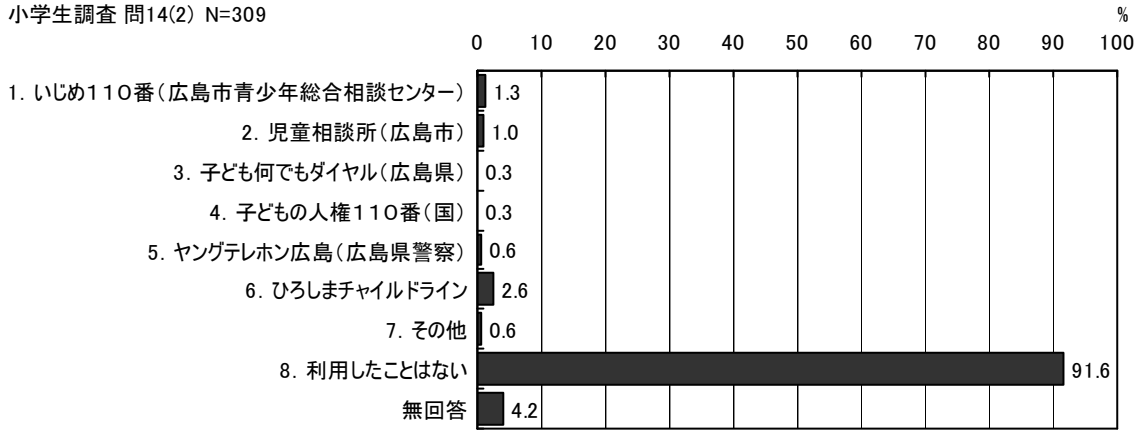


問　利用したことがある相談窓口はどこか。（複数回答）
（前問で「知っているところがない」以外の回答をした人のみ）

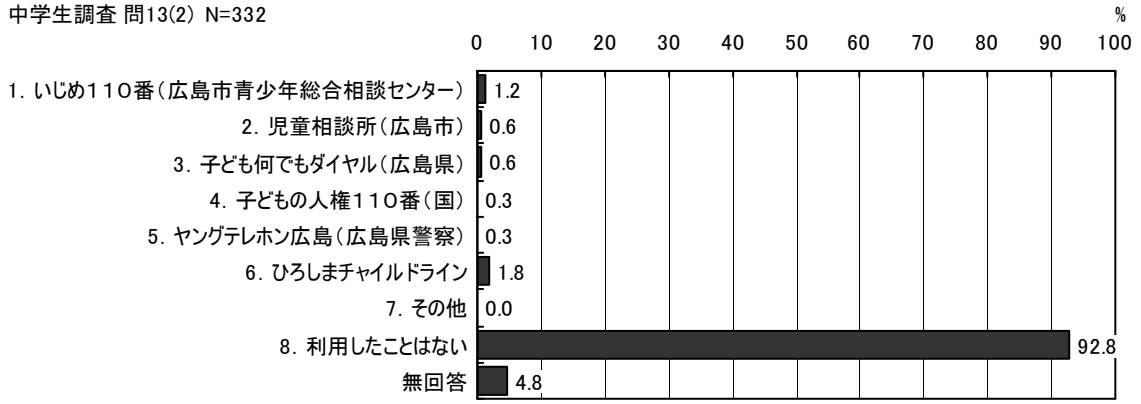
小学生、中学生、高校生とも、約9割が「利用したことはない」となっている。

利用しているサービスでは、小学生、中学生では、「ひろしまチャイルドライン」が他に比べ、わずかに高くなっているが、高校生では、「児童相談所（広島市）」が「ひろしまチャイルドライン」より高くなっている。

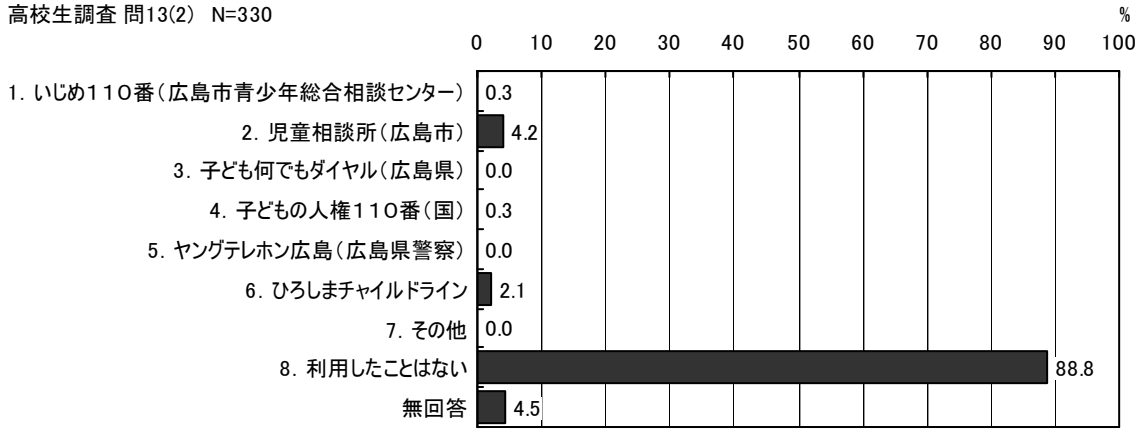
小学生調査 問14(2) N=309



中学生調査 問13(2) N=332



高校生調査 問13(2) N=330



問　利用しなかった理由は何か。（複数回答）
（前問で「利用したことがない」と回答した人のみ）

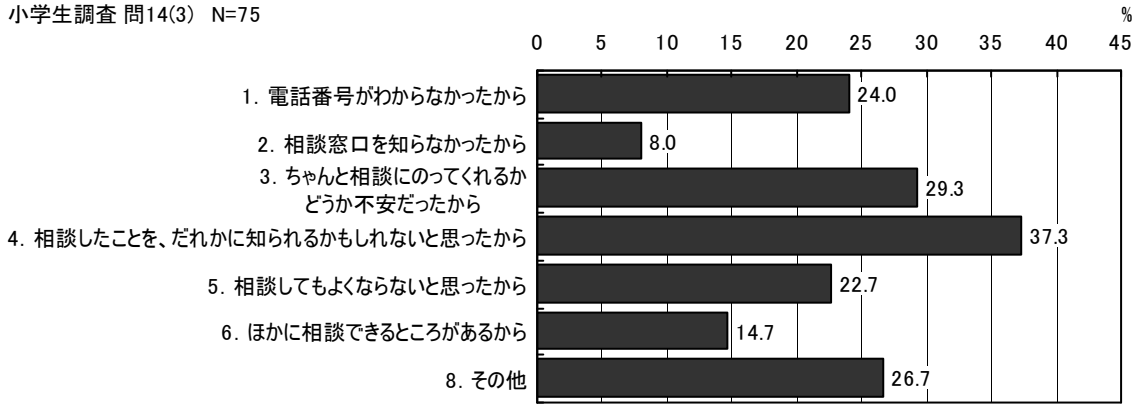
小学生、中学生、高校生とも、「相談する必要がなかったから」が約8割と最も高くなっている。

「相談する必要がなかったから」を除くと、小学生は「相談したことを、だれかに知られるかもしれないと思ったから」が最も高く、続いて「ちゃんと相談にのってくれるかどうか不安だったから」「その他」「電話番号がわからなかったから」となっている。

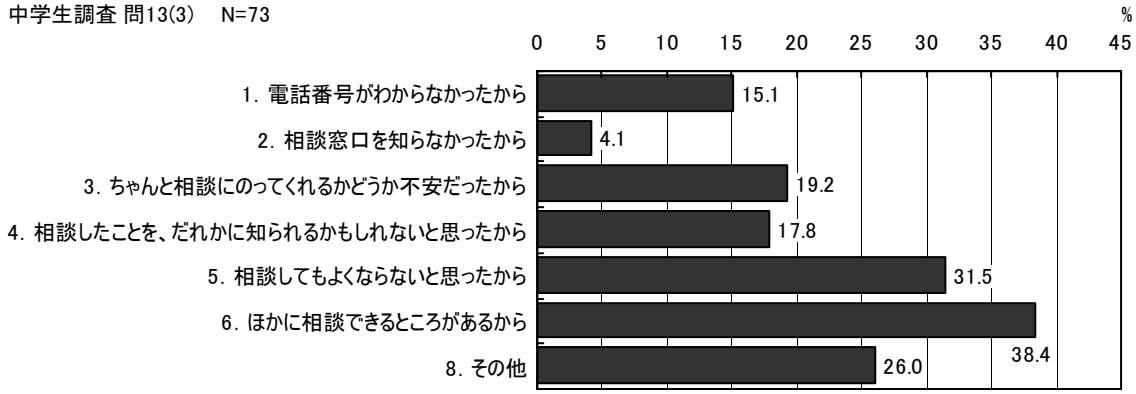
中学生、高校生は、「ほかに相談できるところがあるから」「相談してもよくならないと思ったから」が高くなっており、続いて「その他」「ちゃんと相談にのってくれるかどうか不安だったから」となっている。

「その他」の理由で主なものは、小学生、中学生、高校生とも、「相談することがなかった」「知らない人に話したくない」などである。

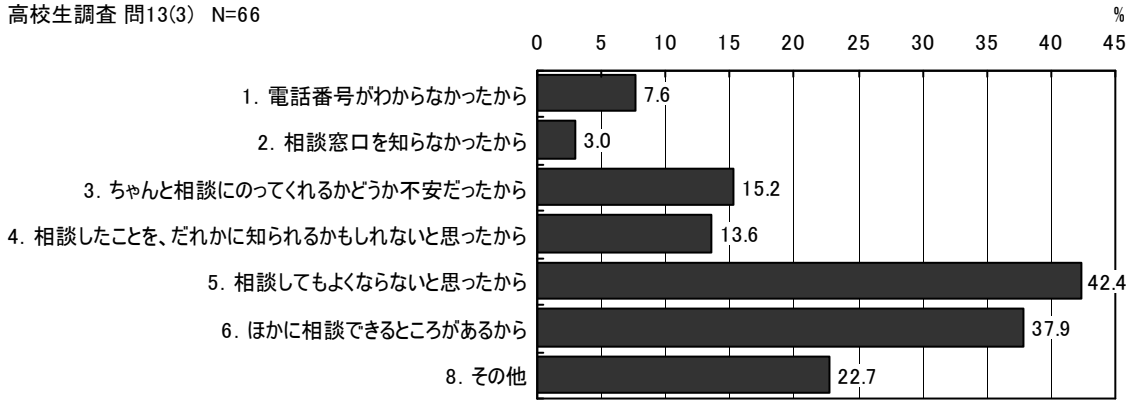
小学生調査 問14(3)　N=75



中学生調査 問13(3)　N=73



高校生調査 問13(3)　N=66



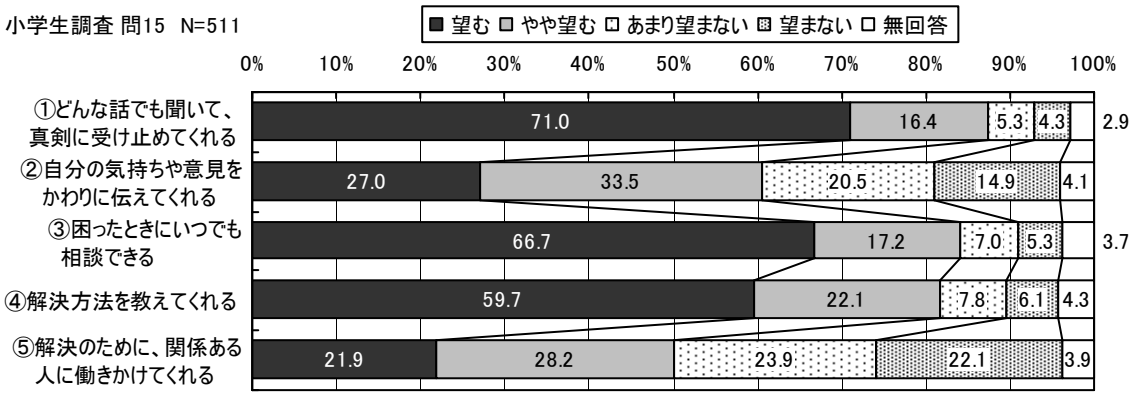
※「相談する必要がなかったから」のみを回答した児童・生徒を除いている。

（２）相談窓口に望むこと

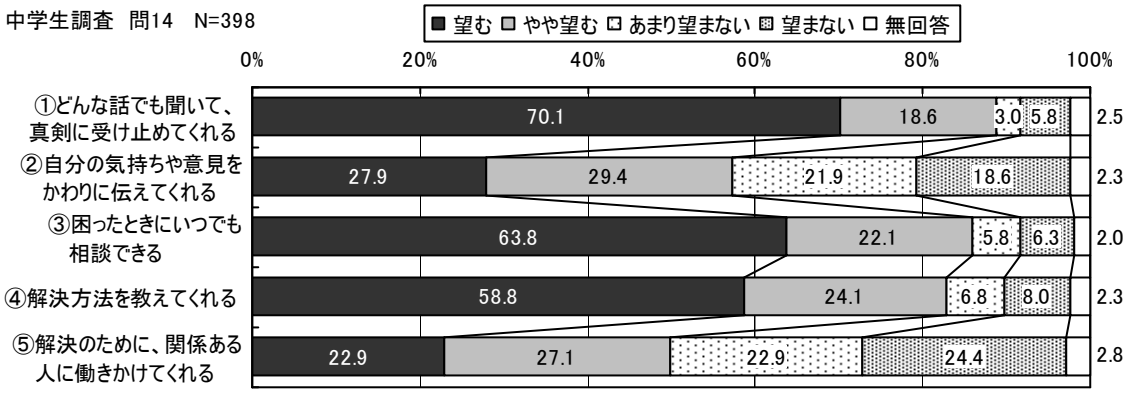
問　相談窓口を利用しようとする場合、次のことを望むか。

小学生、中学生、高校生とも、「どんな話でも聞いて、真剣に受け止めてくれる」「困ったときにいつでも相談できる」「解決方法を教えてくれる」が高い一方で、「自分の気持ちや意見をかわりに伝えてくれる」「解決のために、関係のある人に働きかけてくれる」は低くなっている。

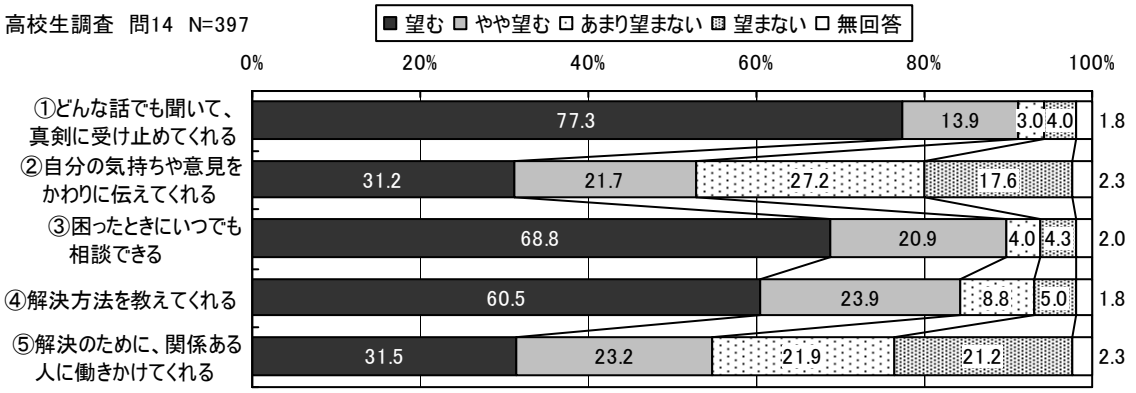
小学生調査 問15　N=511



中学生調査　問14　N=398



高校生調査　問14　N=397

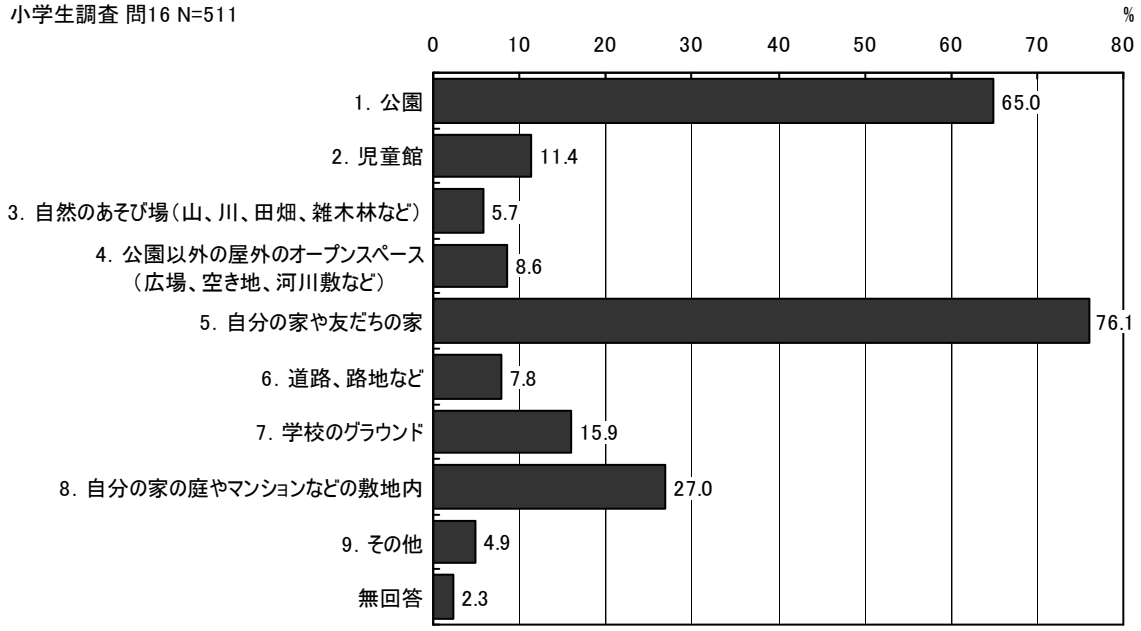


３　子どもの遊び場〔小学生〕

（１）ふだんの遊び場

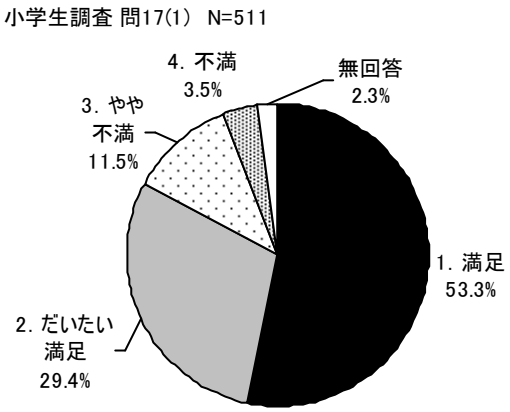
問　休日や学校が終わってからのふだんのあそび場は次のどれか。（複数回答）

ふだんの遊び場は、「自分の家や友だちの家」が 76.1%、「公園」が 65.0%と高くなっている。



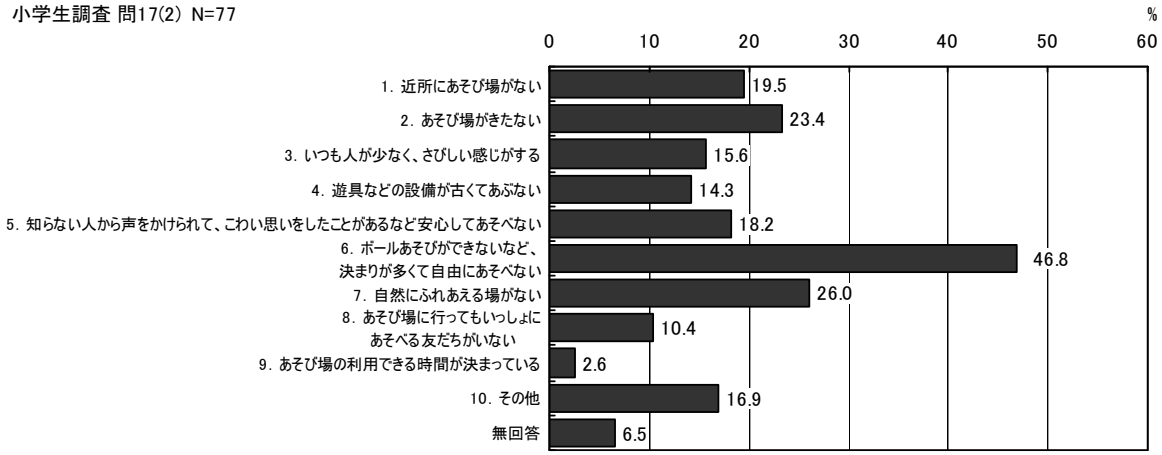
問　ふだんのあそび場に満足しているか。

遊び場について満足しているかどうかについては、「満足」と「だいたい満足」の合計の割合が 82.7%となっている。



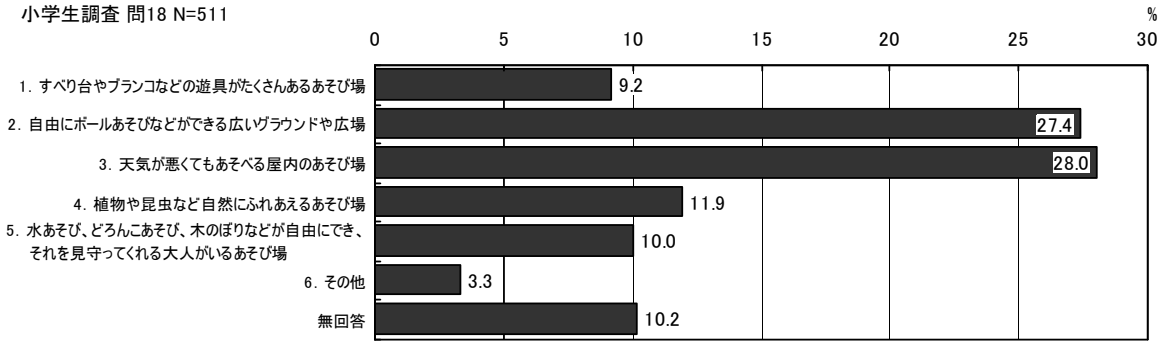
問　どのようなことが不満か。（複数回答）
（前問で「やや不満」「不満」と回答した人のみ）

「ボールあそびができないなど、決まりが多くて自由にあそべない」が 46.8％と最も高く、続いて、「自然にふれあえる場が少ない」「あそび場がきたない」「近所にあそび場がない」となっている。



問　ふだんの遊び場としてどんな遊び場があればいいと思うか。

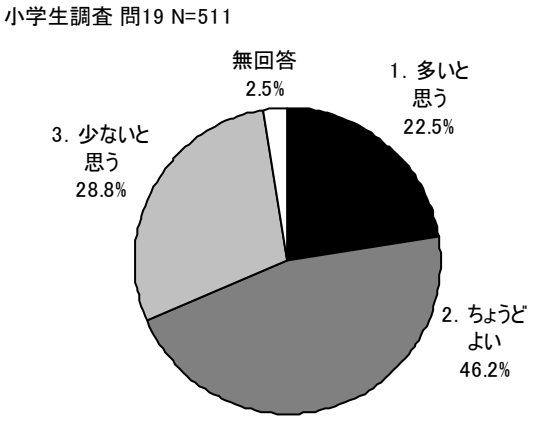
「天気が悪くてもあそべる屋内のあそび場」、「自由にボールあそびなどができる広いグラウンドや広場」が約3割と高く、続いて、「植物や昆虫など自然にふれあえるあそび場」「水あそび、どろんこあそび、木のぼりなどが自由にでき、それを見守ってくれる大人がいるあそび場」「すべり台やブランコなどの遊具がたくさんあるあそび場」となっている。



（２）遊び時間

問　遊び時間は多いと思うか。

遊び時間が「ちょうどよい」が高く、「多いと思う」と合せると、約7割となっている。

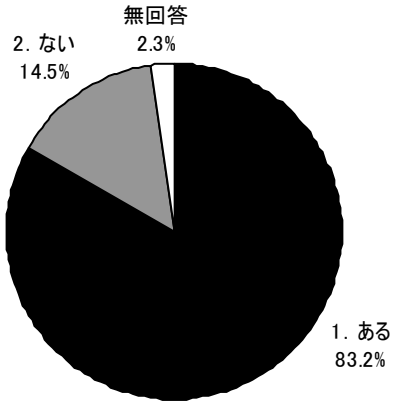


（３）児童館の利用

問　児童館を利用したことがあるか。

児童館の利用については、利用したことが「ある」が8割を超えている。

小学生調査 問20 N=511

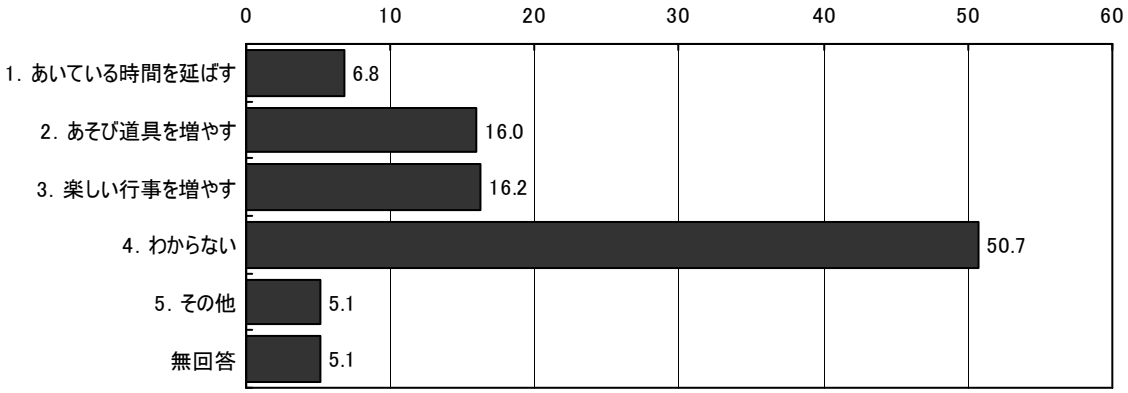


問　どのようにすれば、児童館がもっと利用したくなると思うか。

どのようにすれば児童館がもっと利用したくなるかについては、「わからない」が 50.7%と最も高くなっているが、「楽しい行事を増やす」「あそび道具を増やす」が約 16%となっている。

具体的な行事の主なものは、お楽しみ会、お祭り、スポーツ大会などで、遊び道具の主なものは、ボール、外での遊び道具などとなっている。

小学生調査 問21 N=511



4　子どもの意識

（１）ふだんの生活で感じていることなど

問　ふだんの生活で感じていることや思っていることについて

小学生、中学生、高校生とも、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計の割合が高いのは、「③他人の考えを尊重することは大切だ」「⑦人といっしょにいることが好きだ」「⑨他人の命は大切だ」「⑩自分の命は大切だ」で8割を超えている。

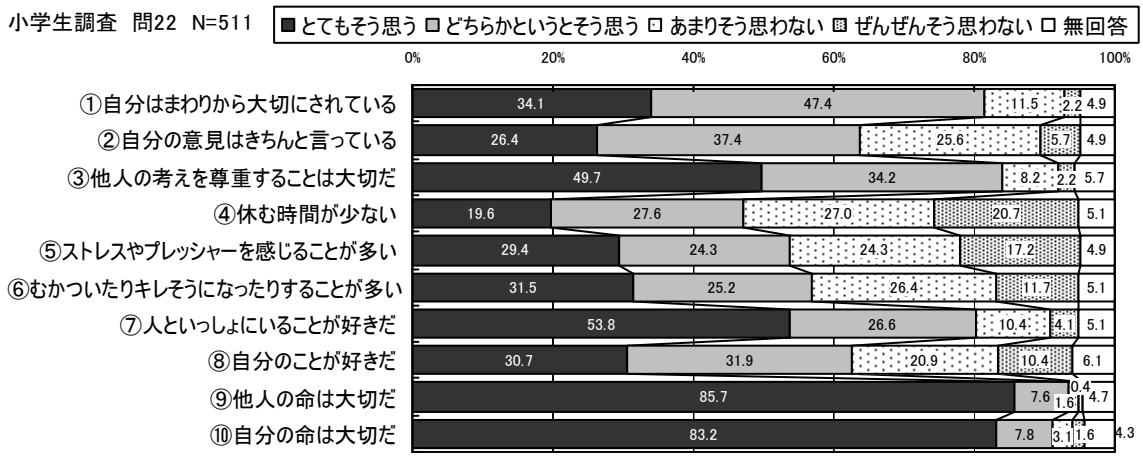
「①自分はまわりから大切にされている」について、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計の割合は、小学生は 81.5%と高いが、中学生 74.6%、高校生 77.4%となり、「⑧自分のことが好きだ」についても、小学生が 62.6%になっているのに対し、中学生 47.0%、高校生 53.9%と減少している。

小学生、中学生、高校生とも、「②自分の意見はきちんと言っている」「⑩自分の命は大切だ」に比べて、「③他人の考えを尊重することは大切だ」「⑨他人の命は大切だ」が高くなっている。

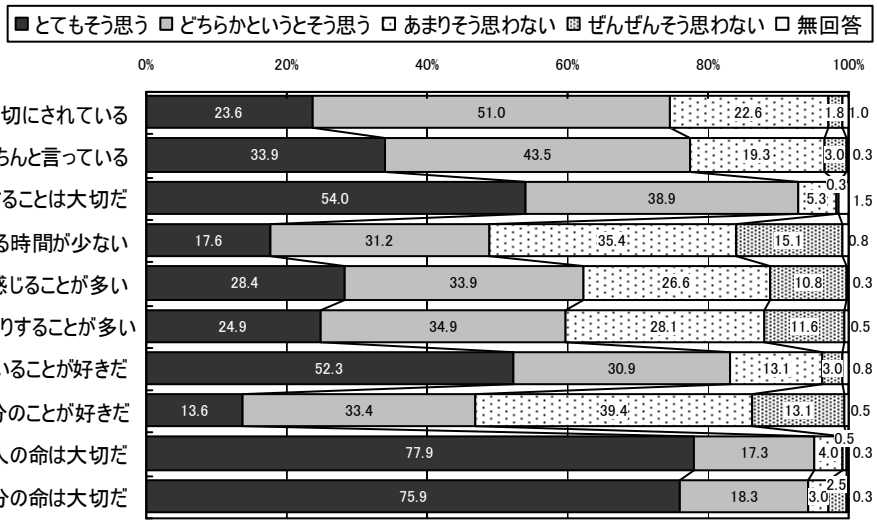
また、「②自分の意見はきちんと言っている」について、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計の割合は、小学生が 63.8%になっているのに対し、中学生 77.4%、高校生 74.8%と増加し、「他人の考えを尊重することは大切だ」についても、小学生が 83.9%なっているのに対し、中学生 92.9%、高校生 94.4%と増加している。

「④休息する(休む)時間が少ない」については、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の割合が、小学生、中学生では約5割となっているが、高校生は 58.7%と増加している。

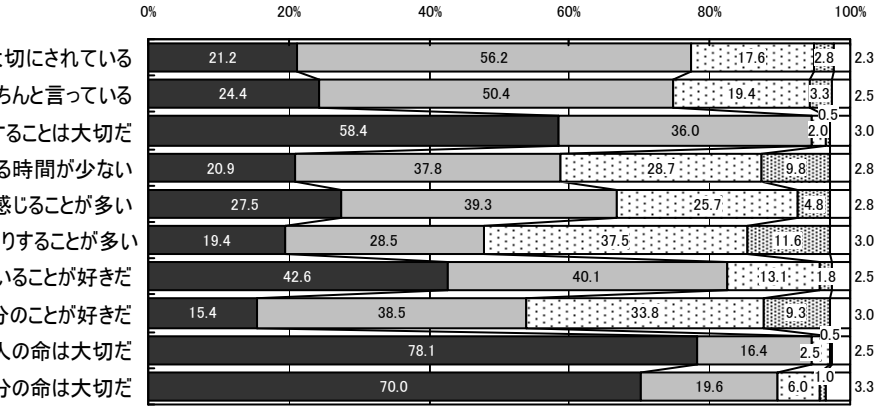
「⑤ストレスやプレッシャーを感じることが多い」については、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計の割合が小学生、中学生、高校生とも5割を超えて高く、小学生 53.7%、中学生 62.3%、高校生 66.8%と年代が上がるにつれて増加している一方で、「⑥むかついたりキレそうになったりすることが多い」については、小学生 56.7%、中学生 59.8%と高いが、高校生では 47.9%と減少している。



中学生調査　問15　N=398



高校生調査　問15　N=397

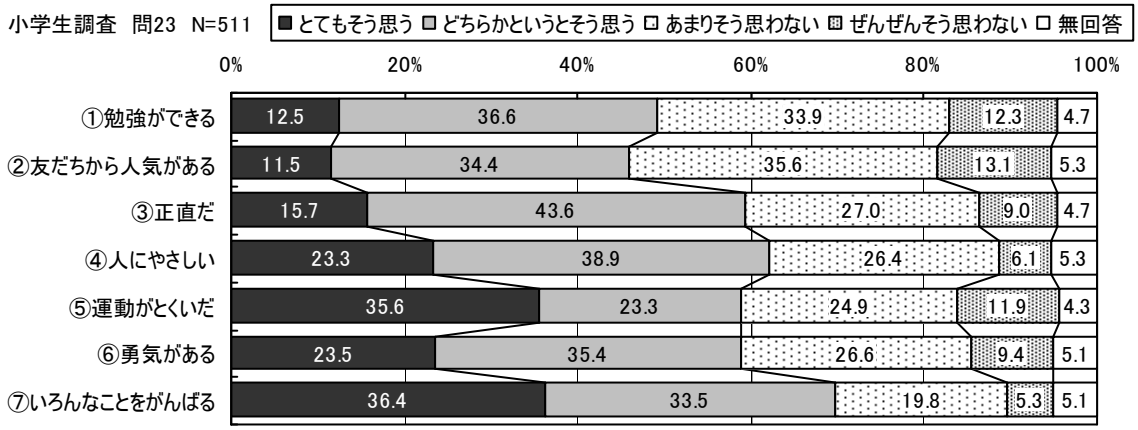


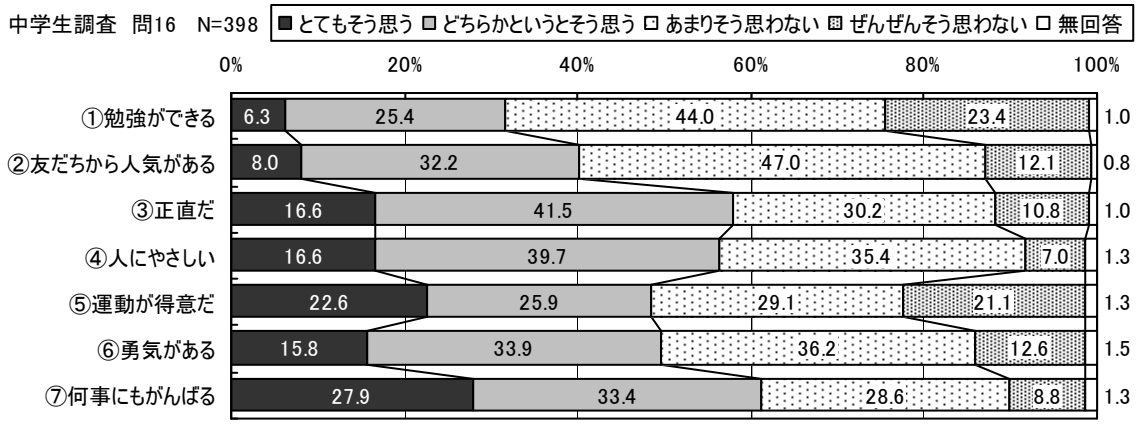
（２）自分のことについて

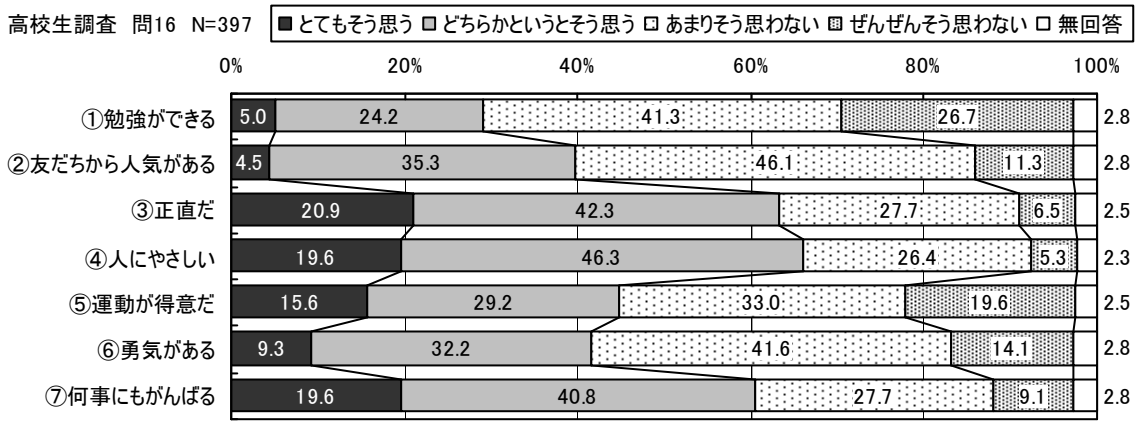
問　自分のことをどのように思っているか。

小学生、中学生、高校生とも、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計の割合が高いのは、「③正直だ」「④人にやさしい」「⑦何事にも（いろんなことを）がんばる」で約6割となっている。

「①勉強ができる」については、「とてもそう思う」と「どちらかというとそう思う」の合計の割合が、小学生が 49.1%となっているのに対し、中学生 31.7%、高校 29.2%と減少し、「⑤運動が得意だ」についても、小学生が 58.9%となっているのに対し、中学 48.5%、高校生 44.8%と減少している。





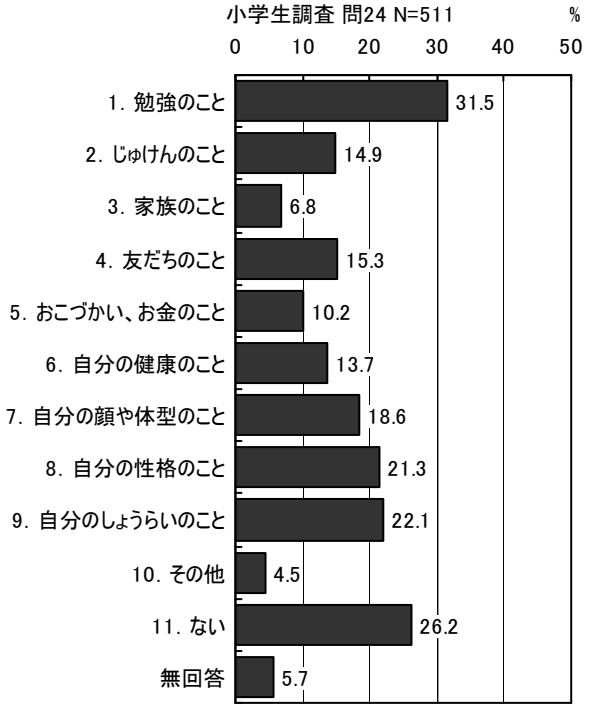


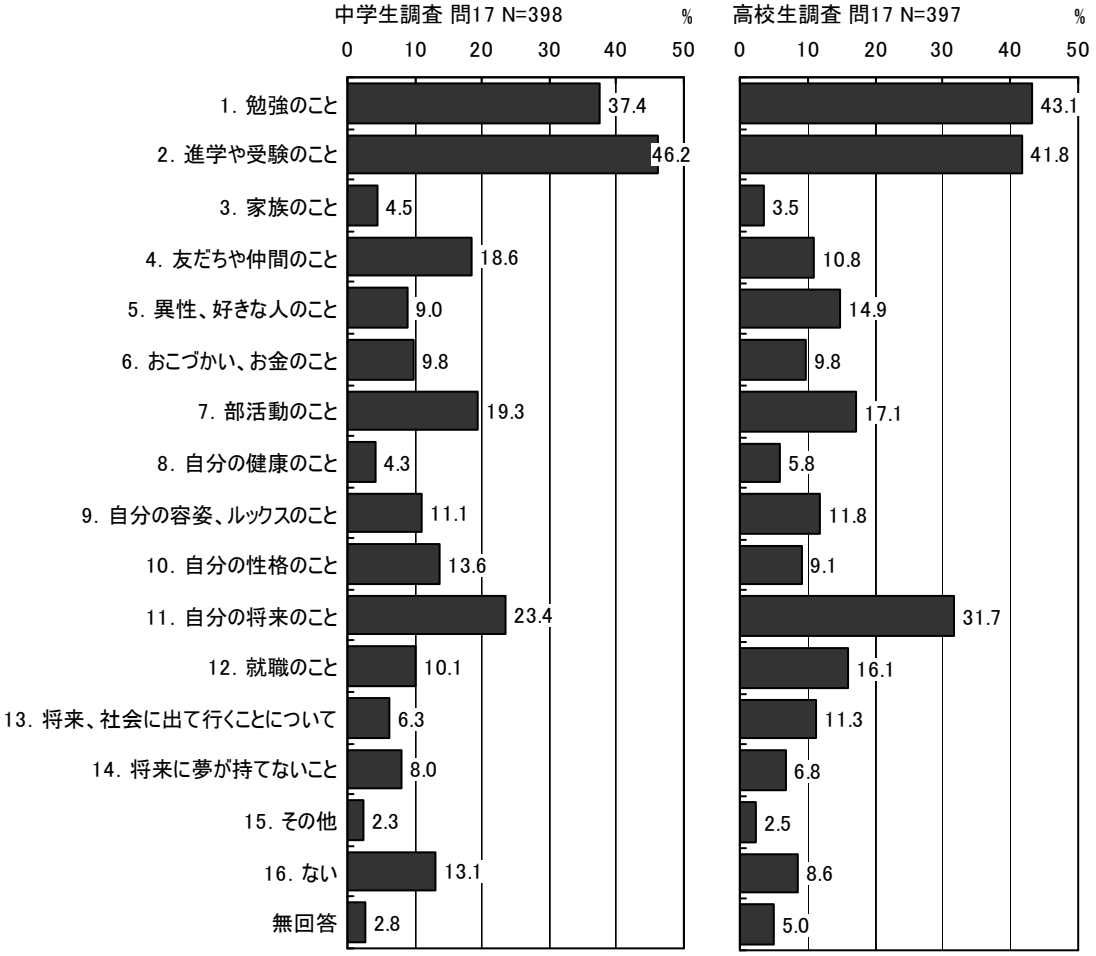
（３）悩みや不安について

問　悩みや不安があるか。（複数回答）

小学生は、「勉強のこと」が 31.5%と最も高く、次に「ない」が 26.2%、続いて「自分のしょうらいのこと」「自分の性格のこと」「自分の顔や体型のこと」が約2割となっている。

中学生、高校生は、「勉強のこと」「進学や受験のこと」が約4割と高く、続いて、「自分の将来のこと」が高くなっている。





問　悩みや不安があったとき、誰かに相談したか。（複数回答）
（前問で「ない」以外に回答した人のみ）

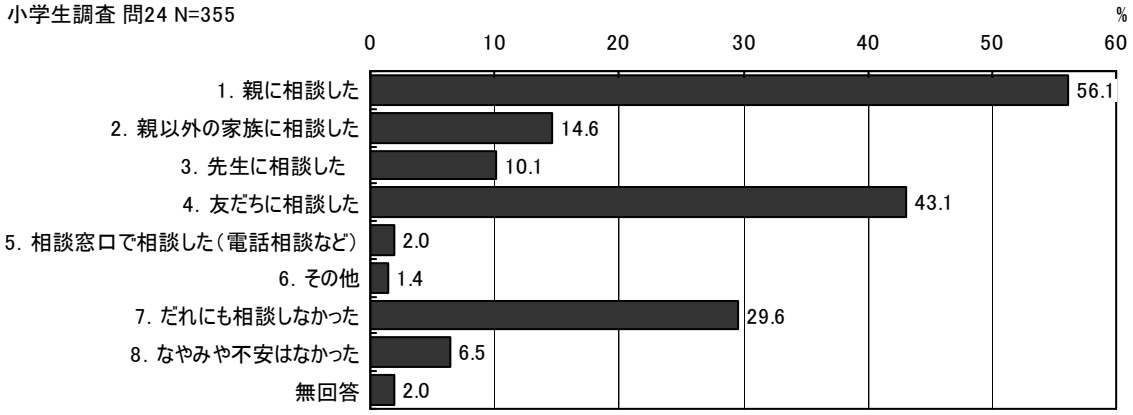
小学生は、「親に相談した」が 56.1％と最も高く、続いて「友だちに相談した」が高くなっている。

中学生、高校生は、「友だちに相談した」が5割を超えて最も高く、続いて「親に相談した」が高くなっている。

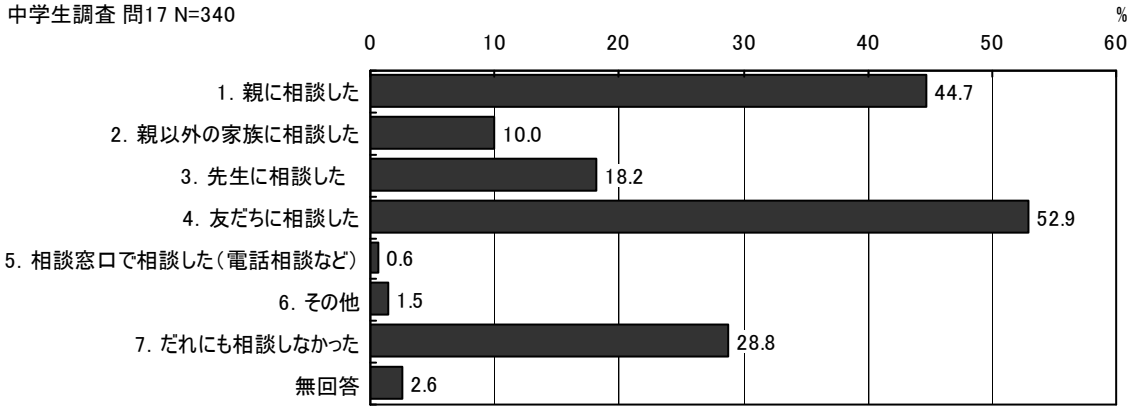
「先生に相談した」については、小学生が 10.1％となっているのに対し、中学生 18.2％、高校生 20.7％と増加している。

一方で、「だれにも相談しなかった」が、小学生、中学生、高校生とも約3割となっている。

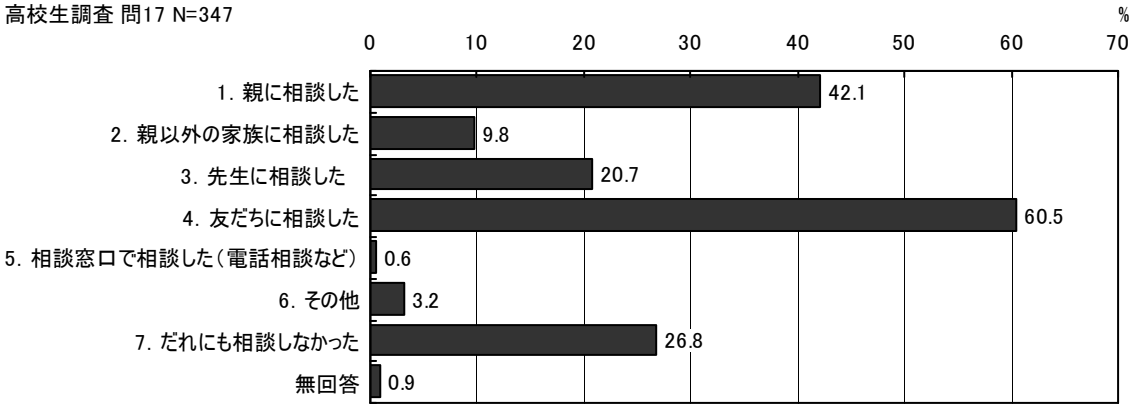
小学生調査 問24 N=355



中学生調査 問17 N=340



高校生調査 問17 N=347

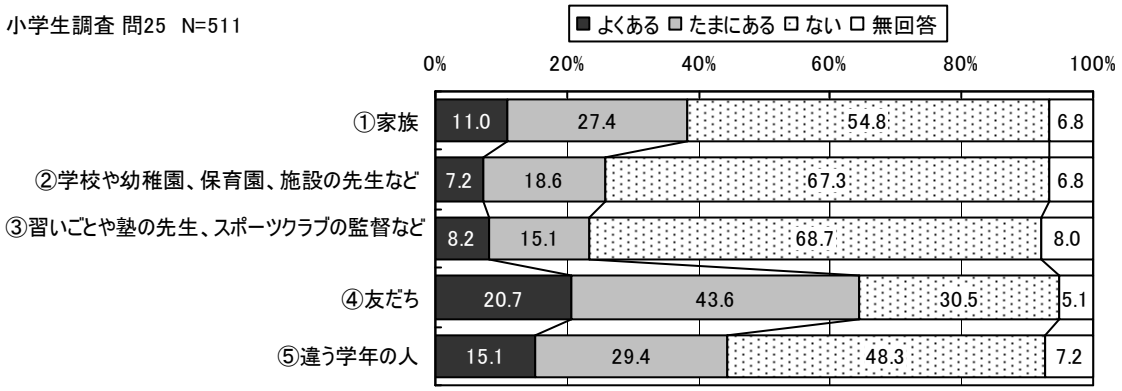


（４）周りの人との関係

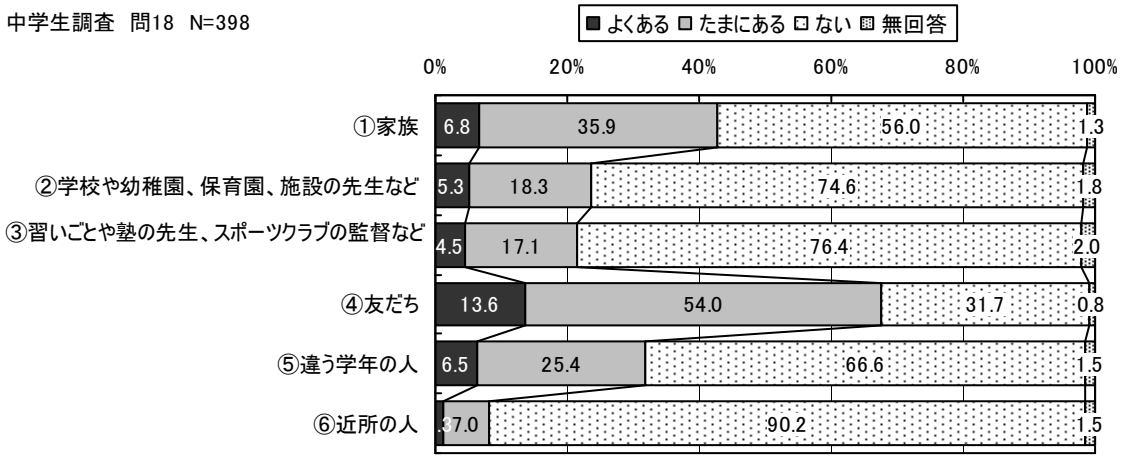
問　これまでに、まわりの人から心が傷つくことを言われたりされたりしたことがあるか。

小学生、中学生、高校生とも、「よくある」と「たまにある」の合計の割合が最も高いのは、「友だち」で6割を超えている。続いて高いのは、小学生は「違う学年の人」、「家族」で、中学生、高校生は、「家族」、「違う学年の人」となっている。「家族」については、年代が上がるにつれて増加し、高校生では52.6%となっている。

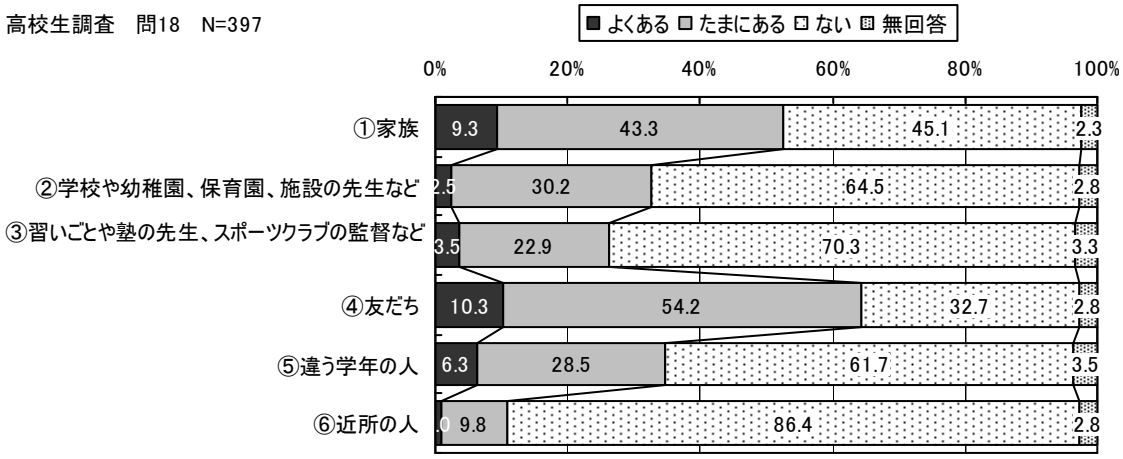
小学生調査 問25　N=511



中学生調査　問18　N=398



高校生調査　問18　N=397

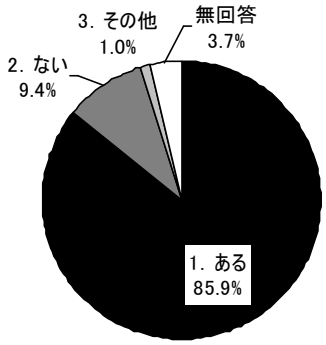


（５）将来の夢

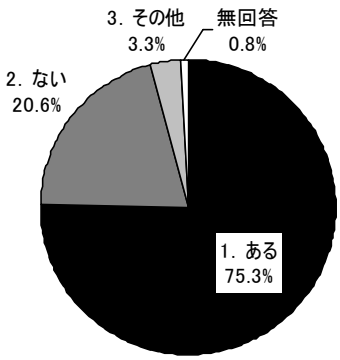
問　将来の夢ややりたいことがあるか。

小学生、中学生、高校生とも、夢ややりたいことが「ある」の割合が高くなっているが、小学生が85.9%になっているのに対し、中学生が 75.3%、高校生が 73.7%と減少している。

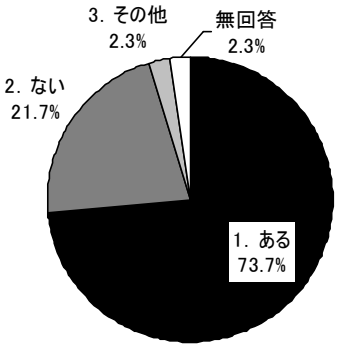
小学生調査 問26 N=511



中学生調査 問22 N=398



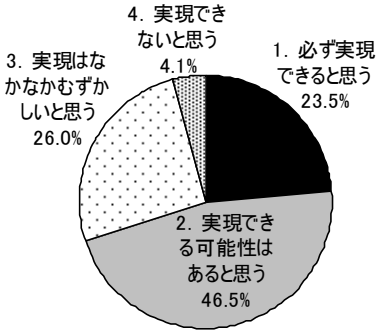
高校生調査 問22 N=397



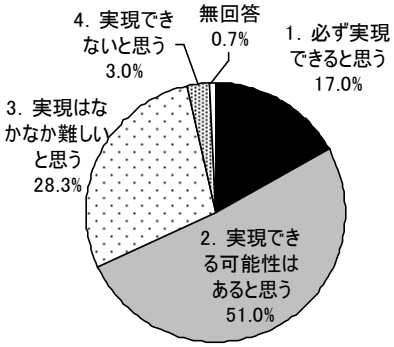
問　夢ややりたいことを実現できると思うか。（前問で「ある」に回答した人のみ）

夢ややりたいことを「必ず実現できると思う」と「実現できる可能性はあると思う」の合計の割合は、小学生が 70.0%、中学生が 68.0%、高校生が 75.4%と高くなっている。

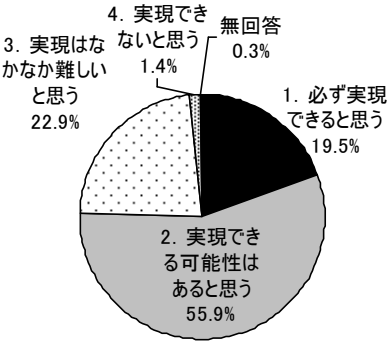
小学生調査 問26 N=439



中学生調査 問22 N=300



高校生調査 問22 N=293



Ⅳ　まとめ

１　家庭・学校・地域での生活の状況

（１）ふだんの生活や家庭での過ごし方

平日の放課後の過ごし方は、小学生では、「自分の家で勉強をする」の回答が5割を超えて最も高く、「習い事や塾へ行く」、「友だちと遊んでいる」が続いて高い。休日の過ごし方は、「自分の家で勉強をする」、「家族で買い物やレジャーに行く」の回答がそれぞれ約4割と高く、「テレビやビデオをみている」、「パソコンやゲームをしている」が続いて高い。

中学生、高校生では、平日の放課後の過ごし方は、「学校でクラブ活動や生徒会活動、勉強などをしている」の回答が、中学生は約8割、高校生は約6割で最も高く、「テレビやビデオをみている」が続いて高い。また、小学生では低かった「携帯電話で電話やメールをしている」の回答の割合が高い。休日の過ごし方も平日の放課後と同様の傾向にあるが、平日に比べて、「友だちと遊んでいる」の回答が増加している。

毎日の生活に時間のゆとりがあるかの問いについては、小学生・中学生の約7割、高校生の約6割が、「十分ある」又は「少しある」と回答している。

また、時間に余裕があったらもっと時間をかけたいことについては、小学生、中学生、高校生とも、「友だちと一緒に遊ぶこと」の回答が5割を超えて最も高く、次いで「勉強」となっており、ボランティアや地域活動については非常に少ない。

家族と話す時間については、小学生・中学生の約8割が、「とても多いと思う」又は「どちらかといえば多いと思う」と回答しているが、高校生では約7割と少なくなっている。

（２）学校生活や友だちとの関係

何でも話せる友だちがいるかの問いについては、小学生・中学生の約9割が、「いる」と回答しているが、高校生では約8割と小学生・中学生と比べ少なくなっている。

これまで学校に行きたくないと思ったことがあるかの問いについては、小学生、中学生、高校生とも、約5割が「よくあった」又は「ときどきあった」と回答している。学校に行きたくないと思った理由については、小学生は、「苦手な科目のある日だから」の回答の割合が最も高く、「特に理由はない」が続いて高くなっており、中学生、高校生では、「特に理由はない」が高い。

（３）地域とのかかわり

地域で参加している活動については、小学生の約5割が「ある」と回答しているが、年代が上がるにつれて少なくなり、中学生25％、高校生15％となっている。

近所や地域の人との関係については、小学生、中学生、高校生とも8割以上が「あいさつする人がいる」と回答しているが、年代が上がるにつれて少なくなり、「悪いことをしたときに注意をしてくれる人がいる」の回答についても、 小学生が44％に対し、 中学生25％、高校生14％と少なくなっている。

小学生に比べると、中学生、高校生は地域とのかかわりは減っているが、中学生・高校生の約85％が、自分が住んでいる地域が「好き」又は「まあまあ好き」と回答しており、地域への愛着はあると言える。

中学生、高校生が地域であったらよいと思う場所については、「友だち同士でゆっくり話せる場所」、「スポーツを自由にできる場所」の回答がそれぞれ約5割で高い。

２　子どもの相談窓口

知っている相談窓口については、小学生、中学生、高校生とも、「ひろしまチャイルドライン」の回答の割合が最も高く、次いで、「いじめ110番（広島市青少年総合相談センター）となっている。「知っているところがない」の回答については、小学生が3割を超えて高く、中学生、高校生でも約15％となっている。

利用したことがある窓口については、小学生、中学生、高校生とも、約9割が利用したことがないと回答しており、その理由としては、「相談する必要がなかったから」の回答（約8割）を除いて割合をみると、小学生は「相談したことを、誰かに知られるかもしれないと思ったから」の回答の割合が最も高く、「ちゃんと相談にのってくれるかどうか不安だったから」、「電話番号がわからなかったから」が続いている。中学生、高校生は、「ほかに相談できるところがあるから」、「相談してもよくならないと思ったから」の回答の割合が高い。

相談窓口に望むことは、小学生、中学生、高校生とも、「どんな話でも聞いて、真剣に受け止めてくれる」、「困ったときにいつでも相談できる」、「解決方法を教えてくれる」の回答の割合が高く、「自分の気持ちや意見をかわりに伝えてくれる」、「解決のために、関係のある人に働きかけてくれる」の回答の割合が低い。

これらの回答結果から、相談窓口についての周知が十分とは言えない状況や困ったときにいつでも真剣に話を聞いてくれる窓口が求められていることがわかった。

３　子どもの遊び場（小学生）

ふだんの遊び場は、「自分の家や友だちの家」、「公園」の回答の割合が高い。

遊び場について満足しているかどうかの問いについては、「満足」又は「だいたい満足」の回答が8割を超えている。

「やや不満」又は「不満」の理由は、「ボール遊びができないなど、決まりが多くて自由に遊べない」の回答が約5割で最も高く、「自然にふれあえる場が少ない」、「遊び場がきたない」、「近所に遊び場がない」が続いて高い。

また、ふだんの遊び場としてあればいいと思う遊び場については、「天気が悪くても遊べる屋内の遊び場」、「自由にボール遊びなどができる広いグラウンドや広場」の回答がそれぞれ約3割で高く、「植物や昆虫など自然にふれあえる遊び場」、「水遊び、どろんこ遊び、木登りなどが自由にでき、それを見守ってくれる大人がいる遊び場」、「すべり台やブランコなどの遊具がたくさんある遊び場」が続いている。

遊び時間については、「ちょうどよい」又は「多いと思う」の回答が約7割で高い。

ふだんの遊び場や遊び時間に対しての満足度は高いが、自由にボール遊びなどができるところや自然にふれあえる場などが求められているとともに、天気が悪くても遊べる屋内の遊び場が求められていることがわかった。

４　子どもの意識

（１）　ふだんの生活で感じていることなど

「他人の考えを尊重することは大切だ」、「人と一緒にいることが好きだ」、「他人の命は大切だ」、「自分の命は大切だ」については、小学生、中学生、高校生とも、「とてもそう思う」又は「どちらかというとそう思う」の回答が8割を超えて高い。

「自分のことが好きだ」については、小学生の約6割が、「とてもそう思う」又は「どちらかというとそう思う」と回答しているが、中学生、高校生では約5割となっている。一方で、「自分の意見はきちんと言っている」、「他人の考えを尊重することは大切だ」については、小学生に比べて中学生、高校生の方が高い。

小学生、中学生、高校生とも、「自分の意見はきちんと言っている」、「自分の命は大切だ」に比べて、「他人の考えを尊重することは大切だ」、「他人の命は大切だ」の方が、「とてもそう思う」又は「どちらかというとそう思う」の回答の割合が高い。

「ストレスやプレッシャーを感じることが多い」については、「とてもそう思う」又は「どちらかというとそう思う」の回答が、小学生、中学生、高校生とも5割を超えて高く、年代が上がるにつれて増える一方で、「むかついたりキレそうになったりすることが多い」については、年代が上がるにつれて少なくなっている。

（２）　自分のことについて

小学生、中学生、高校生とも、「正直だ」、「人にやさしい」、「何事にもがんばる」について、「とてもそう思う」又は「どちらかというとそう思う」の回答が約6割となっている。

「勉強ができる」、「運動が得意だ」については、「とてもそう思う」又は「どちらかというとそう思う」の回答が、小学生では約5割となっているが、中学生、高校生では10ポイント以上少なくなっている。

（３）　悩みや不安について

悩みや不安があるかの問いについて、小学生では、「勉強のこと」の回答が約3割で高く、「ない」、「自分の将来のこと」、「自分の性格のこと」、「自分の顔や体型のこと」が続いて高い。中学生、高校生では、「勉強のこと」、「進学や受験のこと」の回答がそれぞれ約4割で高く、「自分の将来のこと」が続いている。

悩みや不安について相談するのは、小学生では、「親」が約5割で最も高く、次に「友だち」となっているが、中学生、高校生では、「友だち」が5割を超えて最も高く、次に、「親」となっている。一方で、「誰にも相談しなかった」の回答が、小学生、中学生、高校生とも約3割となっている。

（４）周りの人との関係

周りの人から傷つくことを言われたりされたりしたことがあるかの問いに対して、小学生、中学生、高校生とも、「よくある」又は「たまにある」の回答の割合をみると、「友だちから」が6割を超えて高くなっている。続いて、小学生は、「違う学年の人から」、「家族から」となっており、中学生、高校生は、「家族から」、「違う学年の人から」となっている。「家族から」については、年代が上がるにつれて増加し、高校生では5割を超えている。

（５）将来の夢

夢ややりたいことについて、小学生の86％、中学生・高校生の約75％が、「ある」と回答している。夢ややりたいことを「必ず実現できると思う」又は「実現できる可能性はあると思う」の回答についても、小学生、中学生、高校生とも約7割で高い。